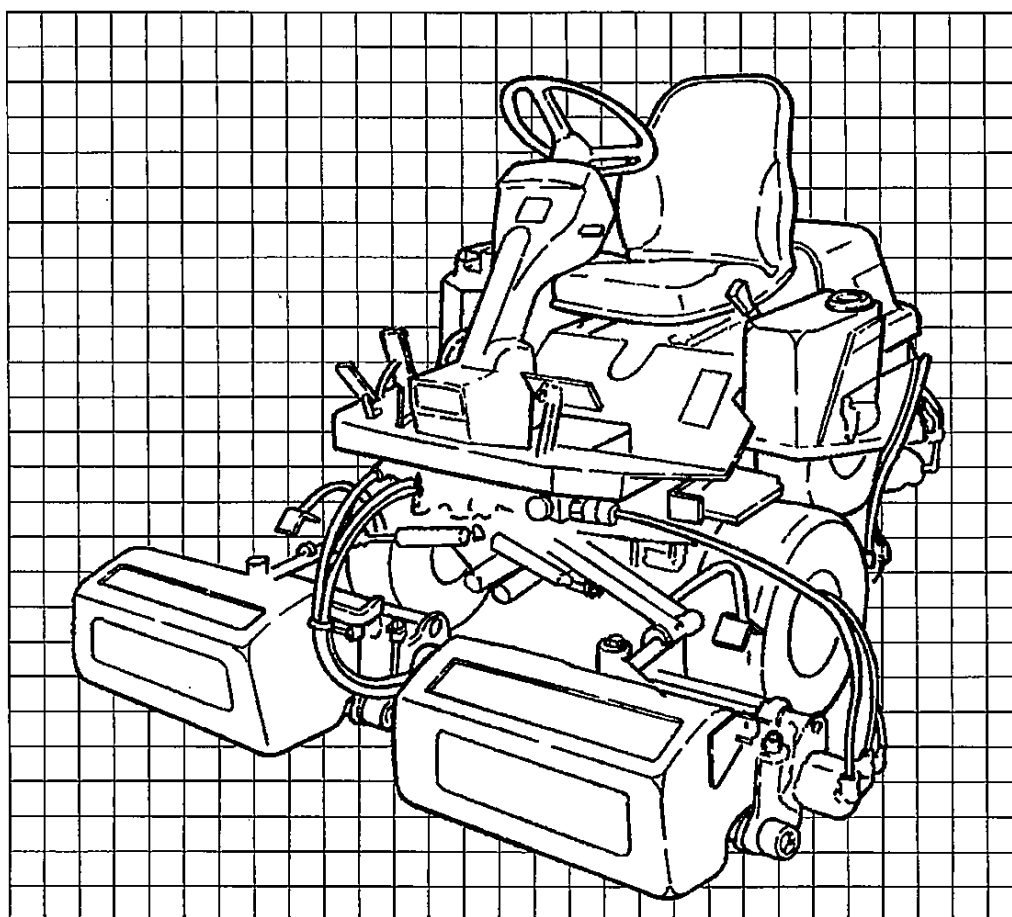


シバウラ乗用リールモア

取扱説明書／部品表

MG70/MT70



▲
当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず
本取扱説明書をよくお読みください。誤った使い方をす
ると、事故を引き起こすおそれがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保管してくだ
さい。

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

このたびシバウラ乗用リールモアをお買い上げいただきありがとうございました。

この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになった後も、この取扱説明書をいつも製品の近くに保存して下さい。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり譲渡するときは、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書および安全銘板を、紛失または破損された場合は、速やかに当社、または当社販売店にご注文ください。
- この取扱説明書には安全に作業していただくために、「安全に作業するために」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことや、お気付のことがございましたら、お買い上げいただいた販売店へご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

記号の見方



危険

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



警告

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



注意

その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

〔取り扱いの注意〕 誤りやすい操作に対する注意を示します。
守らないと、機械の損傷や、故障の原因となります。

<参 考> 作業能率を良くしたり、誤った操作をしないための
補足説明です。

本製品の使用 目的について

本製品は、ゴルフ場およびスポーツターフの芝刈作業、各作業を装着しての作業を目的とした機械です。使用目的以外の作業や急傾斜地など機械の能力を超えた場所では使用しないでください。
使用目的以外の作業や改造などは決して行なわないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は、保証書をご覧ください。）

本文の概要

1章	安全な作業をするために必ずお守りください	●安全に関する重要な内容を、代表的な作業項目について説明しています。個別の作業については、各項目を見てください。また、各安全銘板の内容と貼付位置を示します。
2章	サービスと保証について	●保証書とアフターサービスについて説明します。
3章	各部のなまえ	●本文中、よく使う部品の名前を紹介します。
4章	各操作部のはたらき	●本文中、よく使う操作レバー、および部品の位置とはたらきについて説明します。
5章	運転前・作業前点検のしかた	●本機の点検箇所と、作業に適した服装などを説明します。
6章	運転と作業のしかた	●エンジンの始動から移動走行のしかた、およびトラックでの運搬のしかたを説明します。
7章	作業後の手入れのしかた	●機械を最良の状態にしておくために、毎作業後および長時間使用しないときの手入れのしかたを説明します。
8章	モアの取り扱い	●モアの点検・調整のしかたを説明します。
9章	定期の点検・整備のしかた	●長時間故障なく、本機を安全に使用するための点検・整備のしかたを説明します。
10章	不調診断のしかた	●正常に作動しないときの点検・処置のしかたを説明します。修理に出す前に確認してください。
11章	その他	●主な消耗品、標準付属品、仕様、配線図

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

はじめに	1
お願い	1
おことわり	1
記号の見方（危険・警告・注意・取り扱いの注意・参考）	2
本製品の使用目的について	2
本文の概要	3
1章 安全な作業をするために必ずお守りください	7
1. 一般的な注意事項	7
2. 運転する前に	8
3. 作業前後の点検や整備をするとき	9
4. 運搬するとき	12
5. 移動やほ場へ出し入れするとき	13
6. 作業をするとき	14
7. 作業終了後や格納するとき	17
8. 安全銘板の貼り付け位置	19
2章 サービスと保証について	20
1. 保証書は大切に保管してください	20
2. 補修部品の供給年限について	20
3章 各部のなまえ	21
1. 本機・操作部	21
2. モアユニット	22
4章 各操作部のはたらき	23
1. シート・スイッチ・メータ類関係	23
2. ペダル・レバー関係	26
5章 運転前・作業前点検のしかた	29
1. 作業者の体調・服装について	29
2. 点検のしかた	30
6章 運転と作業のしかた	31
1. ならし運転（最初の50時間）について	31
2. エンジンの始動・停止のしかた	31
3. モアを上下させるには	32
4. 発進・旋回・停止のしかた	33
5. 作業のしかた	33
6. トラックへの積み込み・積み降ろしのしかた	35

7. パワーステアリングについて	37
8. 絵文字の説明	38
7章 作業後の手入れのしかた	39
1. 作業後の手入れ	39
2. ボンネットの開閉のしかた	39
3. 長時間使用しない場合の手入れ	40
8章 モアの取り扱い	41
1. モアの取り外しのしかた	41
2. 切れ味の調整	42
3. 刈り高さの調節	44
4. 作業ローラの調整	46
5. ラッピング（研磨）による切れ味の調整	47
6. リフトアーム吊上げスプリング	49
7. ストッパーの調整	49
8. 遮風板の調整	50
9章 定期の点検・整備のしかた	51
1. 定期点検一覧表	52
2. オイル・グリス・不凍液について	52
3. 給油・給水一覧表	53
4. 燃料の点検・給油のしかた	54
5. 各部のオイルの点検・交換のしかた	54
6. 各部エレメントの交換のしかた	56
7. エアークリーナエレメントの掃除・交換のしかた	58
8. バッテリーの点検のしかた	59
9. パイプ類の点検について	59
10. 電気配線の点検について	59
11. グリスアップ（注入）について	60
12. リールクラッチベルトの点検・調整について	62
13. エンジン回りの掃除について	62
14. ヒューズ・スローブローヒューズの点検・交換について	63
15. タイヤの点検について	63
16. ブレーキの点検・調整について	64
10章 不調診断のしかた	65
1. エンジン関係	65
2. ブレーキ関係	66

3. 油圧関係	66
4. 電装関係	67
11章 その他	68
1. 主な消耗部品	68
2. 標準付属品	68
3. 仕様	69
4. 配線図	70
部品表	73

1章 安全な作業をするために必ずお守りください

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重大な内容です。必ず守ってください。
 - 記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。
- ※ ご購入された製品によっては、該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。

1. 一般的な注意事項

警告

■ こんなときは、運転しない！

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できない。
- 酒をのんだとき
- 妊娠しているとき
- 18才未満の人

〔守らないと〕

思わぬ事故の原因となります。

■ 作業に適した服装をする

はち巻き、首巻き、腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した防護具などを着け、だぶつきのない服装をしてください。

〔守らないと〕

機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。

■ 機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

〔守らないと〕

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

2. 運転する前に

警告

■ 運転者以外に人を乗せない

この機械の乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。

〔守らないと〕

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

■ エンジン始動時は必ず運転席にすわり、周囲の安全確認をする

エンジン始動時は必ず運転席にすわり、シートの位置と周囲の安全を確認してください。

〔守らないと〕

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

注意

■ 寒冷時は暖気運転を実施する

寒冷時は暖気運転を必ず行なってください。

〔守らないと〕

機械の性能が十分に発揮できません。

■ マフラーの高温に注意

運転中およびエンジン停止直後のマフラーは高温ですので、触れないでください。

〔守らないと〕

ヤケドするおそれがあります。

■ 機械の改造禁止

純正以外や指定以外のアタッチメントを取り付けしないでください。改造をしないでください。

〔守らないと〕

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。

■ 点検・整備を行なう

機械を使う前と後には必ず、点検・整備をしてください。特にハンドル・ブレーキ・レバーなどの操縦装置、車輪などの走行装置および電気部品、コードは確実に作動するように点検・整備してください。

〔守らないと〕

事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。

■ 定期点検整備を受ける

1年毎に定期点検を受け、各部の保守をしてください。特にパワーステアリングのホースは、2年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。

〔守らないと〕

整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。

3. 作業前後の点検や整備をするとき

危険

■ 注油・給油はエンジンが冷めてから行なう

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油をしないでください。

〔守らないと〕

燃料に引火して、火災事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明は絶対にしないでください。

〔守らないと〕

燃料に引火して、火災事故を引き起こすおそれがあります。

■ バッテリー点検時は火気厳禁

バッテリーの点検・充電時は火気厳禁です。

〔守らないと〕

バッテリーに引火、爆発してヤケドなどを引き起こすおそれがあります。

■ バッテリー液は体につけないようにする

バッテリー液を身体や服につけないようにしてください。万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

〔守らないと〕

ヤケドをしたり、服が破れるおそれがあります。

■ 燃料もれに注意

燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

〔守らないと〕

火災事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

〔守らないと〕

火災事故を引き起こすおそれがあります。

危険

■ 点検整備は平坦で安定した場所で行なう

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で車止めをして点検整備をしてください。

〔守らないと〕

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

■ マフラー・エンジン周りのゴミは取り除く

マフラーやエンジン周辺部に、草・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

〔守らないと〕

火災事故を引き起こすおそれがあります。

■ タイヤには、規定の最大空気圧以上に空気をいれない

タイヤに空気を入れる際には、規定の最大空気圧以上に空気をいれないでください。

〔守らないと〕

タイヤが破裂して、傷害事故をおこすおそれがあります。

■ 電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

〔守らないと〕

ショートして、火災事故を引き起こすおそれがあります。

■ バッテリー液を「下限 (LOWER)」以下にしない

バッテリー液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。

〔守らないと〕

「下限」以下になると容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

■ 排気ガスには十分に注意する

締め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

〔守らないと〕

排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたるおそれがあります。

■ ブレーキ・ハンドルの点検を必ず行なう

ブレーキの効きが悪かったり片効きがないように、またハンドルに著しいガタや遊びがないように、点検してください。

〔守らないと〕

事故を引き起こすおそれがあります。

 **警告****■ 高圧オイルに注意**

油圧の継手やホースにゆるみや破損がないかを常に確認し、継手やホースをはずす前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

〔守らないと〕

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故をひきおこすおそれがあります。

 **注意****■ バッテリーの取り付け取り外しは正しい手順で行なう**

バッテリーを取り付けるときは+側を先に取り付け、取り外すときは-側から取り外します。

〔守らないと〕

ショートして、ヤケドや火災事故をおこすおそれがあります。

■ 点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

〔守らないと〕

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。

■ カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

〔守らないと〕

機械に巻き込まれて、傷害事故を引きおこすおそれがあります。

■ 点検整備は過熱部分が十分冷めてから行なう

マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

〔守らないと〕

ヤケドをするおそれがあります。

■ 目的に合った工具を正しく使用する

点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合った工具を使用してください。また点検調整に必要な工具は機械に常備しておいてください。

〔守らないと〕

整備不良で事故を引きおこすおそれがあります。

4. 運搬するとき



警告

■ あゆみ板の上では、だ性運転はしない

坂道やあゆみ板の上での走行は十分注意して行ってください。アンロードバルブを押してのだ性運転はしないでください。

〔守らないと〕

機械の重みで坂を下がり、転落などの事故をまねくおそれがあります。

■ 強度・長さ・幅の十分あるあゆみ板を使用する

積み込み、積み降しをするときは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け車止めをしてください。使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。

〔守らないと〕

転落などの事故を引き起こすおそれがあります。

■ 登るときは後退、降りるときは前進で行なう

トラックに積み込むときは後退で、降りるときは前進で行なってください。

〔守らないと〕

バランスを崩し、転落などの事故を引き起こすおそれがあります。

■ ロープでトラックに確実に固定する

トラックに乗せて移動するときは、駐車ブレーキを掛け、強度の十分あるロープでトラックに機械を固定してください。

〔守らないと〕

荷台から機械が転落したりして、事故を引き起こすおそれがあります。

5. 移動やほ場へ出し入れするとき

警告

■ 一般道路走行禁止

特殊自動車の型式認定を取得していませんので一般道路は走行できません。

〔守らないと〕

道路交通違反により罰せられることがあります。

■ 周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進する

周囲の安全を確認してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

〔守らないと〕

傷害事故をおこすおそれがあります。

■ 移動時は路肩に注意

溝のある道路や両側が傾斜している道路では、路肩に十分注意してください。

〔守らないと〕

転落事故をおこすおそれがあります。

■ 急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行なってください。旋回するときはスピードを落としてください。また凸凹道やカーブの多い場所では、十分速度を落としてください。

〔守らないと〕

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。

■ 坂道・あゆみ坂の上では変速禁止

あらかじめ適正な速度段を選択、坂道やあゆみの坂の上では、変速をしないでください。

〔守らないと〕

機械の重みで坂を下り、事故をおこすおそれがあります。

■ 溝を渡るときはあゆみ板を使用する

ほ場に入るとき、溝を渡るとき、軟弱な場所を通るとき、必ずあゆみ板を使用してください。あゆみ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

〔守らないと〕

スリップや転倒による事故をおこすおそれがあります。

注意

■ 暖気運転中は駐車ブレーキを掛ける

〔守らないと〕

機械が自然に動きだし、事故を引きおこすおそれがあります。

■ 高速走行時、急激なブレーキ、ペダル操作はしない

〔守らないと〕

転倒・転落事故をおこすおそれがあります。

6. 作業をするとき



■ 作業機の着脱は平坦な場所で行なう

作業機の着脱は、平坦で安定した場所で行なってください。夜間は適切な照明をしてください。

〔守らないと〕

事故を引き起こすおそれがあります。

■ 人や物をウエイト代わりにしない

ウエイト代わりに人や物をのせないでください。

〔守らないと〕

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 機械と作業機の周辺に人を近づけない

機械を移動するときは、機械の周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。

〔守らないと〕

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 機械に作業機を装着するときは、作業機の取扱説明書を必ず読む

機械に作業機を装着するときは、事前に必ず作業機の取扱説明書をよく読んでください。

〔守らないと〕

傷害事故や機械の破壊をひきおこします。

■ 作業機を付けたときは旋回に注意

作業機によっては、かなりの長さになるものがありますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。

〔守らないと〕

作業機が衝突したりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 保護具は必ず着用する

保護メガネ・ヘルメット・滑り止めのついた靴を必ず着用してください。

〔守らないと〕

傷害事故を負うおそれがあります。

 **警告****■ 作業機の下にもぐったり、足を入れない**

作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

〔守らないと〕

作業機が下がったとき、傷害事故を負うおそれがあります。

■ 作業前に、ほ場内にある石等の障害物を取り除く

〔守らないと〕

事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。

■ 急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止は、ゆっくりと行なってください。旋回するときは、充分スピードを落としてください。

また傾斜地や凹凸のあるところでは、速度を落としてゆっくりと移動してください。

〔守らないと〕

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。

■ 巻き付き、詰まり点検は必ずエンジン停止

刈り刃に巻き付いた草を取ったり、作業機の詰まりを見るときは、必ずエンジンを停止してください。

〔守らないと〕

巻き込まれ事故をおこすおそれがあります。

■ 傾斜地では変速禁止

予め適正な変速段数を選び、傾斜地で変速しないようにしてください。

〔守らないと〕

転落事故、機械の損傷を起こすおそれがあります。

■ 子供を近づけない

子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

〔守らないと〕

傷害事故引きおこすおそれがあります。

■ 異常な振動が出たら、直ちに点検・修理を行なう

異常な振動が出たら直ちにエンジンを停止し、原因を調べて修理してください。

〔守らないと〕

事故・ケガ・機械の故障をまねくおそれがあります。

■ モアの排出口には、人を近づけないこと

草やホコリが飛び出します。石などが飛び出すことがあります。

〔守らないと〕

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



■ わき見、手放し運転はしない

〔守らないと〕

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 機械から離れるときは平坦地に置き、エンジンを止める

機械から離れるときは平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け車止めをしてください。また作業機は地面に接地してください。

〔守らないと〕

機械が動き出し、事故をおこすおそれがあります。

■ 運転者以外に人を乗せない

この機械の乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。

〔守らないと〕

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

■ エンジン回りに堆積した芝草はすみやかに取り除く

乾燥した枯れ草がエンジン・マフラー・エキゾーストパイプ・Vベルト回りに接触または、堆積すると熱により引火するおそれがあります。すみやかに取り除いてください。

〔守らないと〕

火災を引き起こすおそれがあります。

7. 作業終了後や格納するとき

危険

■ 注油・給油はエンジンが冷えてから行なう

エンジン回転中やエンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

〔守らないと〕

燃料などに引火して、火災事故を引き起こすおそれがあります。

■ シートは機械が十分冷めてからかける

機械にシートをかける場合はマフラーやエンジンが十分に冷めてからかけてください。

〔守らないと〕

火災事故を引き起こすおそれがあります。

警告

■ 点検整備は平坦で安定した場所で行なう

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、機械の前輪には車止めをして点検整備をしてください。

〔守らないと〕

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。

■ マフラー・エンジン周りのゴミは取り除く

マフラーやエンジン周辺に、草・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

〔守らないと〕

火災事故を引き起こすおそれがあります。

■ 電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

〔守らないと〕

ショートして、火災事故を引き起こすおそれがあります。

■ 長期格納時はバッテリーとキーを外す

長時間使用しないで格納する場合は、バッテリーを取り外し、キーを抜き取り保管してください。

〔守らないと〕

事故を引き起こすおそれがあります。

注意

■ 高圧オイルに注意

油圧の継手やホースにゆるみや損傷がないかを常に確認し、継手やホースを外す前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

〔守らないと〕

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ バッテリーの取り付け取り外しは正しい手順で行なう

バッテリーを取り付けるときは+側を先に取り付け、取り外すときは一側から取り外します。

〔守らないと〕

ショートして、ヤケドや火災事故を引き起こすおそれがあります。

■ 点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

〔守らないと〕

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。

■ カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

〔守らないと〕

機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 点検整備は過熱部分が十分冷めてから行なう

マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

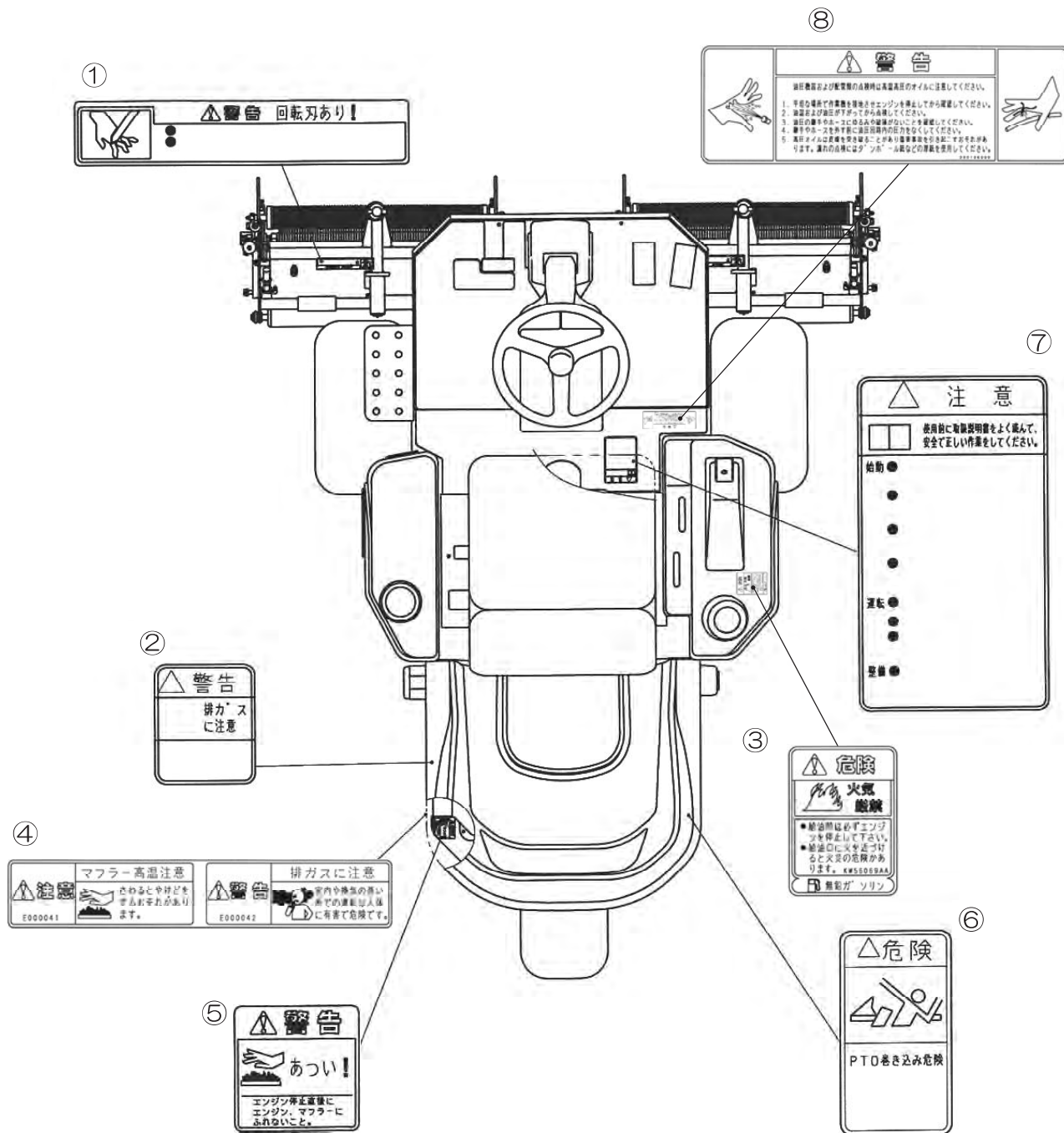
〔守らないと〕

ヤケドをするおそれがあります。

8. 安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために、安全銘板の貼り付け位置を示したものです。

安全銘板は常に汚れや破損しないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼りなおしてください。



No.	部品番号	名称	No.	部品番号	名称
①	A90630010	コーションプレート	⑤	A90610040	ケイコラベル (熱い)
②	390196110	コーションプレート (排気ガス)	⑥	390196040	コーションプレート (回転危険)
③	A10920629	コーションプレート (火気厳禁)	⑦	390196280	コーションプレート (取扱説明書)
④	A10920630	コーション: ホンキ (エンジン付属品)	⑧	390196990	コーションプレート (高温 高圧警告)

2章 サービスと保証について

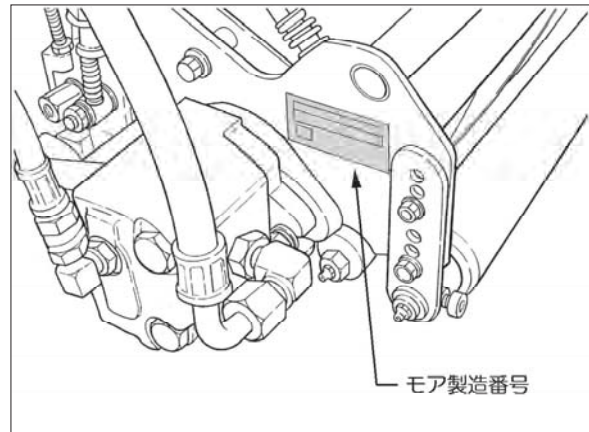
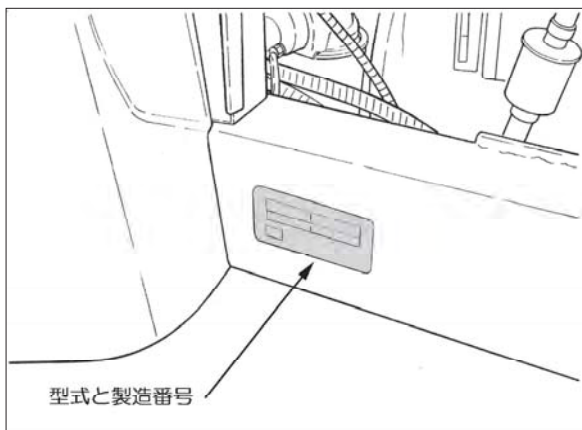
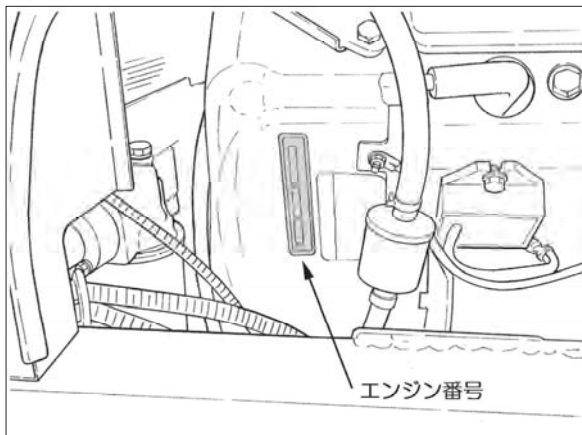
1. 保証書は大切に保管してください。

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

(保証書は、本書最終ページに「安全説明確認カード」と共に添付してあります) なお、ご使用中の事故やご不審な点については購入先、または弊社営業所(この説明書末尾参照)にお気軽にお問合せください。

<連絡していただきたい内容>

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況(どんな作業をしていたら)
- どのくらい使用しましたか(使用時間)
- 不具合が発生したときの状況を出来るだけ詳しく教えてください。

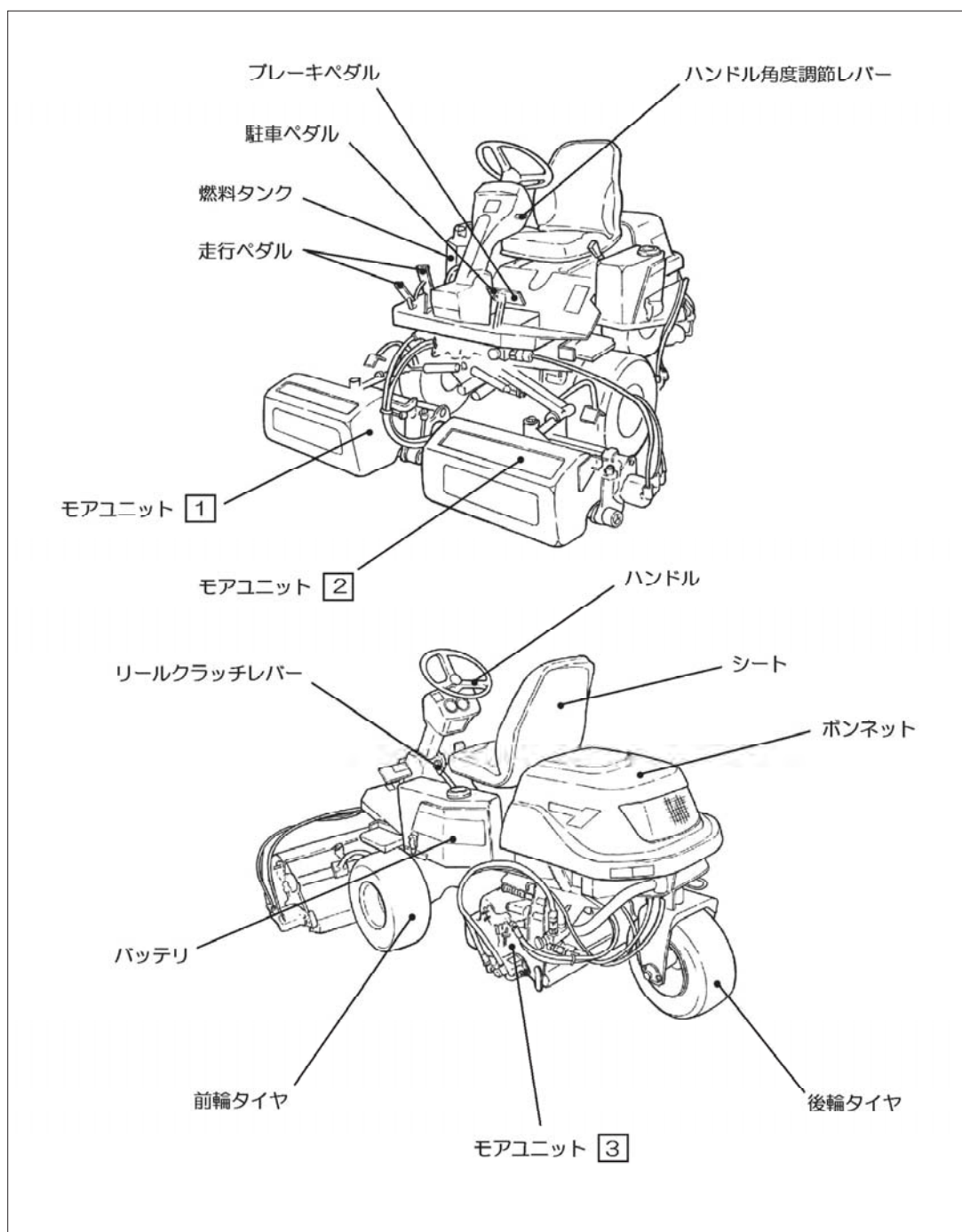


2. 補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品供給年限(期間)は、製造打ち切り後8年です。ただし供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には納期および価格についてご相談させていただきます。

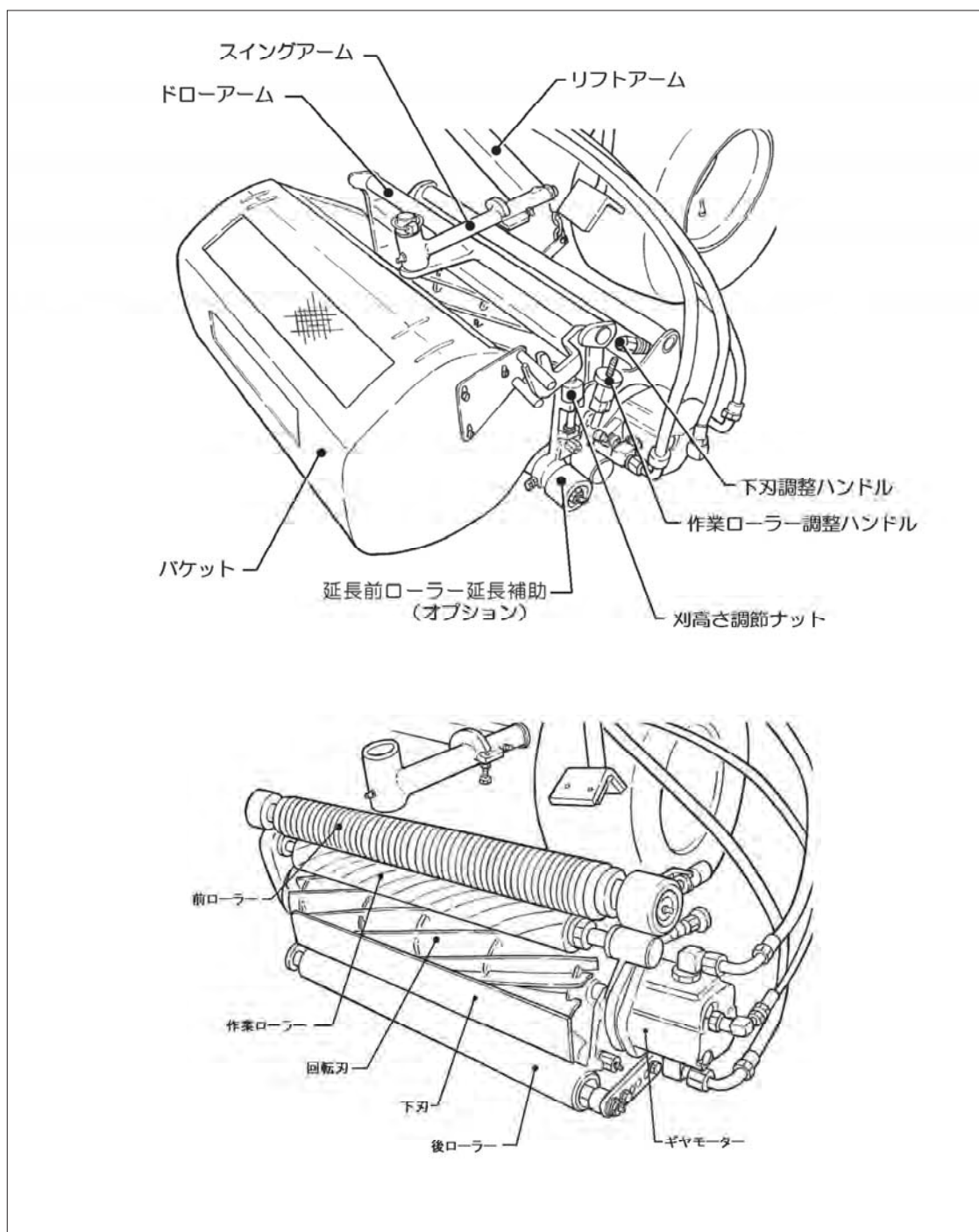
3章 各部のなまえ

1. 本機・操作部



3章 各部のなまえ

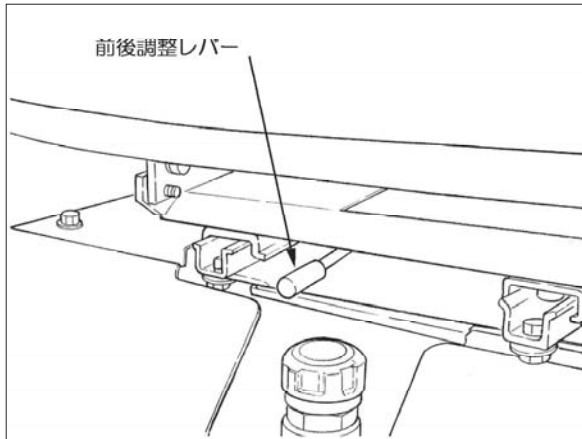
2. モアユニット



4章 各操作部のはたらき

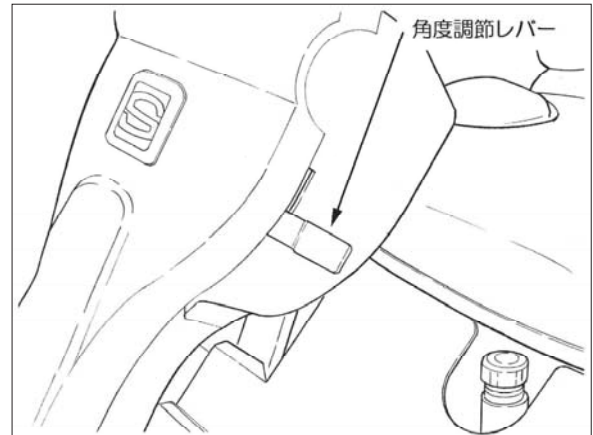
1. シート・スイッチ・メータ類関係

①シート前後調節



レバーを動かすと前後にスライドします。作業ポジションに適した位置に調節してください。

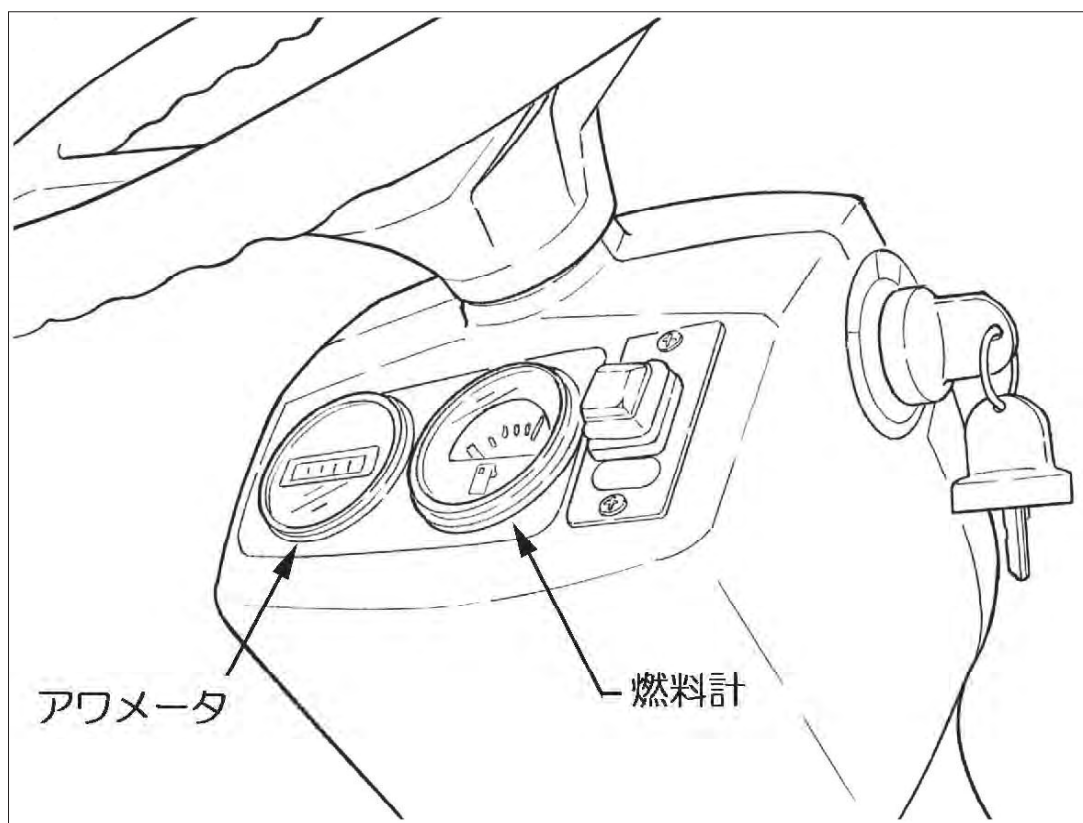
②ハンドル



レバーを上げるとハンドルの角度を自由に調節できます。位置が決まったら、レバーを下げ固定してください。

また、走行中の調節は行わないでください。乗り降りの際はこの機構を使用し、一番前の位置にすると便利です。

③メータ



①アワメータ

アワメータは、総運転時間を示します。フロントモアの定期点検・整備は窓の数字に基いて実施してください。

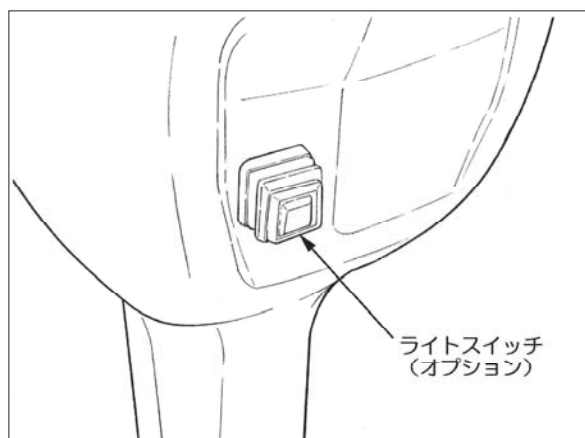
右端の数字は0.1時間（6分）を表します。

例 253 4— —253.4時間 （24分）

②燃料計

キースイッチが〔入〕の位置で燃料タンク内の残量を示します。

④ライトスイッチ（オプション）



スイッチを押すとヘッドライトがつきます。ヘッドライト点灯状態にはライトスイッチもランプがつきます。また、メータ内部も照明状態になります。

⑤キースイッチ（右手操作）



- ①〔切〕 ----- エンジンが停止し、キーの着脱できる位置
- ②〔入〕 ----- エンジンの運転中の位置
- ③〔始動〕 ----- エンジンを始動させる位置、手を離すと自動的に〔入〕に戻ります。

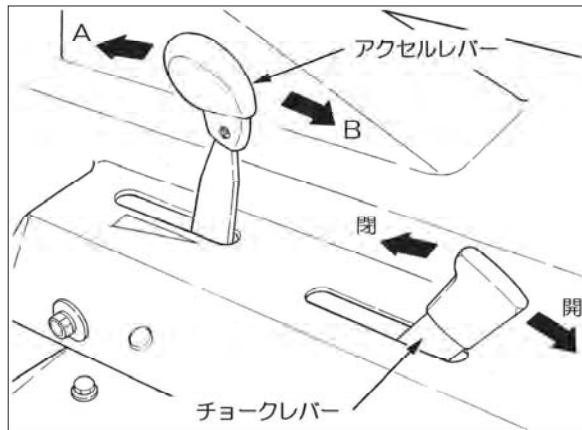
⚠ 注意

- 機械を使用しないときは必ずキーを抜いて、安全な保管場所にキーを保管してください。守らないと、児童などが操作し、事故を起こすおそれがあります。

4章 各操作部のはたらき

2. ペダル・レバー関係

①アクセル・チョークレバー（右手操作）



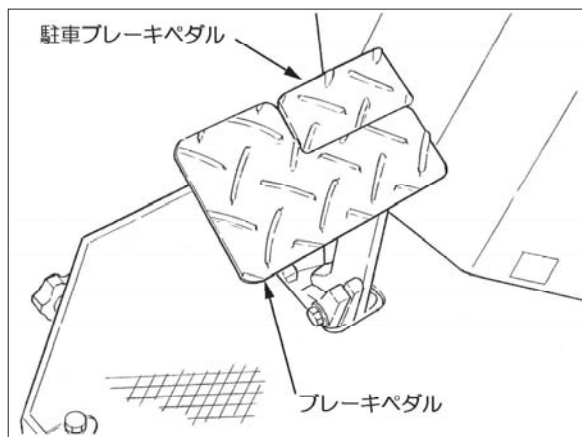
A : エンジンの回転が高くなる

B : エンジンの回転が低くなる

エンジンの回転を速くしたり、遅くしたりするのに使
用します。

②ブレーキ

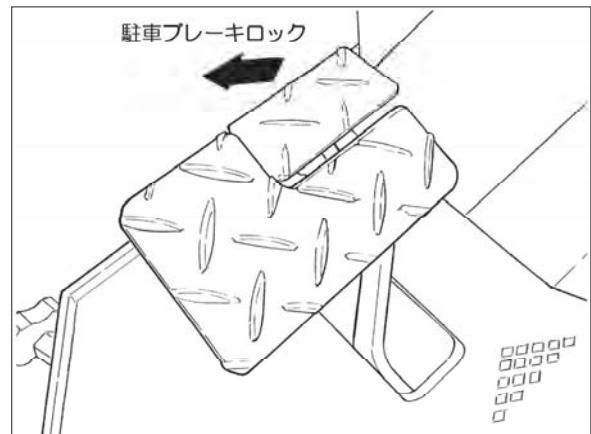
●メインブレーキ（左足操作）



本機を停止させるときに使用します。

ペダルを踏むことでブレーキがかかります。また、始
動安全装置が付いていますから、始動時には必ず踏ん
でください。

●駐車ブレーキ（左足操作）

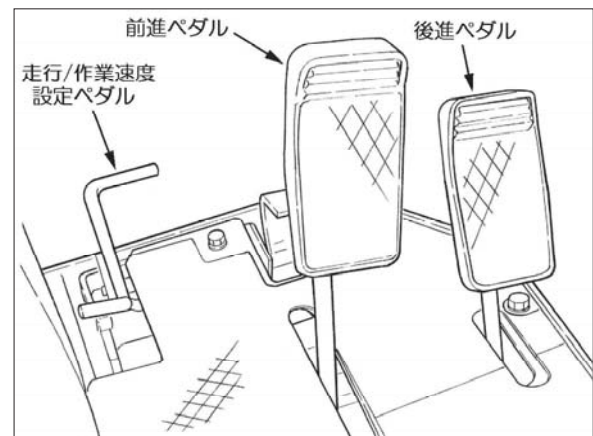


駐車ブレーキペダルとブレーキペダルを同時に踏むと
駐車ブレーキがかかります。

解除するときは、ブレーキペダルを強く踏んでくださ
い。

本機から離れるときには、駐車ブレーキをかけてくださ
い。

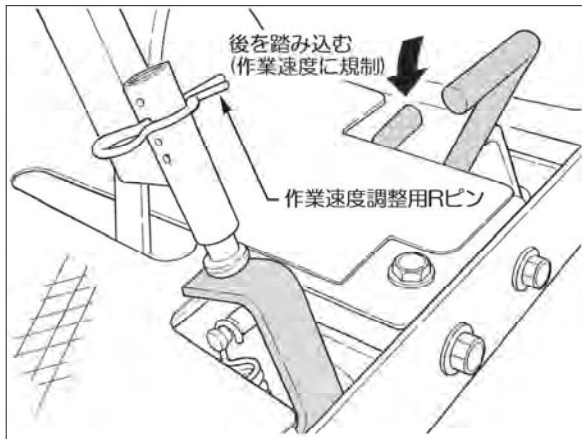
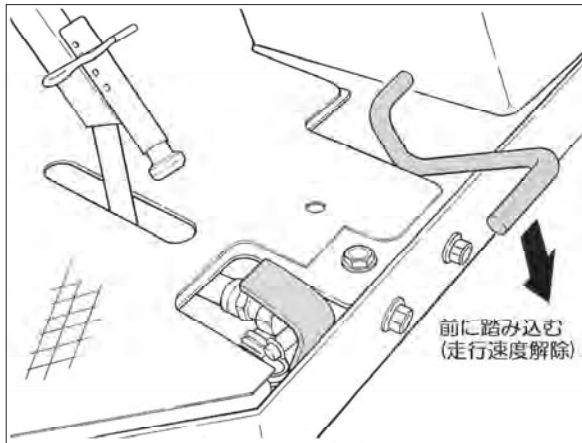
③前・後進ペダル（右足操作）



本機を前進させるには前進ペダル、後進させるには後
進ペダルを踏み込みます。

この本機には、クラッチペダルはなく、ペダルの踏み
具合（強弱）により速度を上げたり下げたりできる。

④作業速度設定ペダル（右足操作）



車速を移動速度（高速）と作業速度（低速）の2通り選ぶことができます。

また、作業速度は作業速度調整用Rピンの差し替えて4段階の速度を選ぶことができます。

作業時は作業速度設定ペダルの後ろ側を踏み込み前進ペダルの踏み代を調整してください。

作業速度調整ペダルを操作するときは本機を停止させてから行ってください。

3. 作業機 コントロール関係

本機には、作業機制御にマイコンを使った制御装置が組み込まれていて、高い作業能率を発揮します。より安全に完成度の高い作業をするために以下の説明を十分理解され運転するようにしてください。

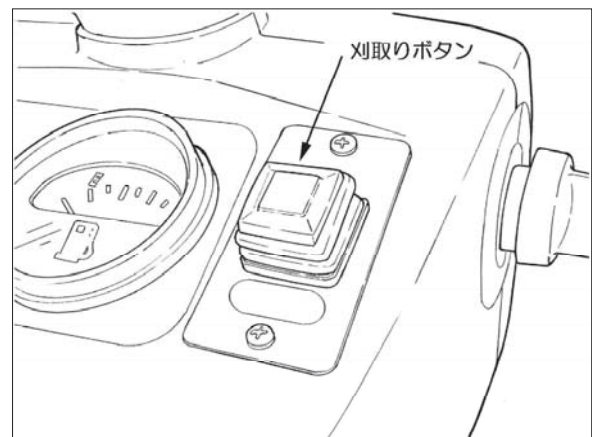
①リールクラッチレバー



リールクラッチレバーを「入り」にするとリール油圧ポンプが回りリールモータへの油圧供給が可能になります。

刈取りボタン（②項参照）が点灯している状態でリールクラッチレバーを入りにするとリールが回転します。

②刈取りボタン

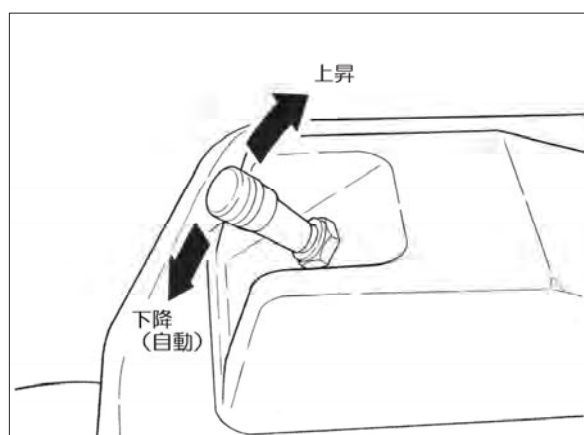
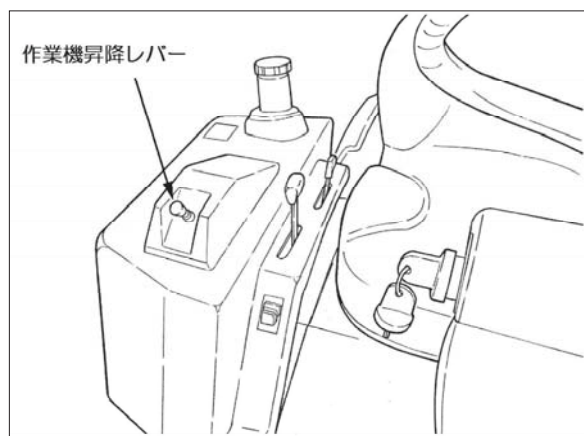


回転刃を回転・停止させるときに使用します。刈り取りボタンを押して点灯させ、昇降レバーを自動側に下げると回転刃が回転します。点灯しているボタンを押して消灯させると停止します。

また制御関係に異常やエラーが検出されるとランプが点灯します。

4章 各操作部のはたらき

③昇降レバー



モアを昇降するときに使用します。

〈刈り取りボタン消灯中〉

自動側に下げるとモアは下降して、上昇側に上げると上昇します。

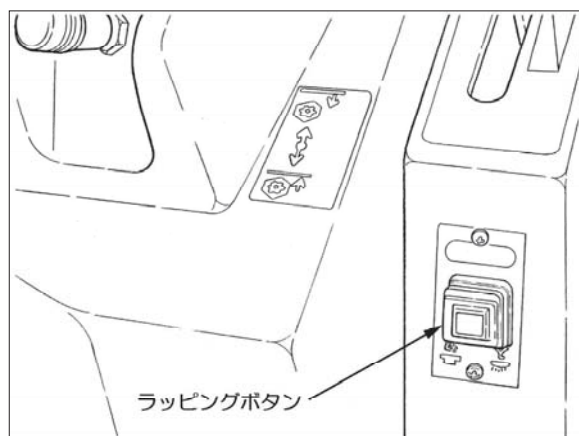
操作した時間だけ作動します。

〈刈り取りボタン点灯中〉

自動側に下げるとモアは下降して、回転刃が回転します。

上昇側に上げると回転刃が停止して、上昇します。

④ラッピングボタン



回転刃を逆回転させるときに使用します。モアを下降させて、ラッピングボタンを押すとランプが点灯し回転刃が逆回転します。

点灯しているボタンを押して、消灯させると停止します。

⚠ 警告

刈り取りボタンとラッピングボタンを同時に点灯させないでください。

5章 運転前・作業前の点検のしかた—必ず点検を行なってください。

⚠ 危険

- 点検・整備・調節を行なうときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから行なってください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。ヤケドをするおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえ煙草・裸火照明は絶対にしないでください。また燃料補給後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと火災の原因になります。
- 燃料パイプが破損していると、燃料もれを起こしますので、必ず点検してください。守らないと、火災を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- 安全で快適な作業を行なうには、本機を使用する人が一日一回、作業前の点検を行なうようにしてください。異常箇所は直ちに整備し、作業終了後も異常がないかチェックしてください。
- 点検整備は交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、車止めした上で行なってください。守らないと機械が転倒するなど事故を起こすおそれがあります。
- 運転・作業前の点検時にエンジンを始動して行なう場合は、閉め切った室内で行なわないでください。
- 運転・作業前の点検をするときは、点検者以外の人（特に子供）を近づけないでください。

⚠ 注意

- 点検・整備をするときは、マフラーやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行なってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。
- 点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故を起こすおそれがあります。

1. 作業者の体調・服装について

①体調について

作業を行なうときは、健康な状態で行なってください。過労・病気・薬物の影響、その他の理由で作業に集中できないときは、作業を行なわないでください。特に、お酒を飲んでいる・妊娠している・18才未満の人は作業を行なわないでください。

②服装について

- 操作レバーや機械部品に引っかからない、だぶつきのない服装をしてください。
- 安全靴などの滑り止めついた靴を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- 作業によっては、保護メガネ・マスク・手袋などの保護具を必ず着用してください。

※タオルをはち巻き・首巻き・腰タオルにして作業を行なわないでください。

2. 点検のしかた

安全で快適な作業を行なうために、本機を使用する人が一日一回作業前の点検を以下の要領に従い行ってください。異常箇所は直ちに整備してください。また、作業中に異常を感じたら、すぐに点検・整備をしてください。

<p>①本機の周りを回ってみて</p> <ul style="list-style-type: none"> ● タイヤの空気圧、摩耗状態・損傷はありませんか 63 ● 車輪取付ボルトのゆるみはありませんか 63 ● 燃料の量と燃料漏れ、燃料パイプの損傷はありませんか 54 ● オイルタンクの量と汚れ、油漏れはありませんか 54 ● バッテリ液の量は正常ですか 59 ● 各部の変形・損傷・汚れはありませんか ● 車体各部の損傷、ボルトのゆるみはありませんか 	<p>参考ページ</p>
<p>②ボンネットを開けてみて</p> <ul style="list-style-type: none"> ● エンジンオイルの量と汚れ、燃料漏れはありませんか 53, 54 ● エアクリーナの汚れはありませんか 58 ● オイルポンプのベルトの張りとは損傷はありませんか 62 ● エンジンルーム内のホコリや芝カスはありますか 62 ● 配線コードの被覆のはがれや接触部のゆるみはありませんか 59 	<p>参考ページ</p>
<p>③作業機（モア）関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 回転刃、下刃の変形、損傷、磨耗はありませんか 41~50 ● 各リンク部の変形、損傷、磨耗はありませんか ● ローラの損傷、磨耗はありませんか 	<p>参考ページ</p>
<p>④運転席に座ってみて</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレーキの作動具合は適正ですか 64 ● 走行ペダルの作動具合は適正ですか 27 ● ハンドルの遊びは適正ですか 37 	<p>参考ページ</p>
<p>⑤エンジンを始動してみて</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 排気ガスの色は正常ですか 65 ● ランプ・メータ類の作動は正常ですか 24, 25 ● エンジン始動後の異音・振動はありませんか 	<p>参考ページ</p>

6章 運転と作業のしかた

1. ならし運転（最初の50時間）について

新車は使用時間50時間までの取り扱いが大変重要です。機械の寿命、性能に大きく影響します。この期間中は、次の点に注意して正しく取り扱ってください。

- (1) 急なスタート、急ブレーキは慎んでください。
- (2) 必要以上のスピードや負荷をかけないでください。
- (3) 運転はエンジンが十分に暖まってから行なってください。
- (4) 悪路や傾斜地では、速度を落としてゆっくり走行してください。
- (5) 使い初めて最初の50時間目には、52ページの「1.定期点検一覧表」に従い各部の点検、オイル交換などをしてください。

2. エンジンの始動・停止のしかた

警告

- エンジン始動時は、必ず運転席に座ってレバーの位置と周囲の安全を確認してください。守らないと、傷害事故を起こすおそれがあります。
- 閉め切った室内ではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず室内で始動する場合は、十分に換気をしてください。守らないと排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故を起こすおそれがあります。

注意

- 機械を使う前と後には、必ず点検・整備をしてください。特にブレーキ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備をしてください。守らないと傷害事故を起こしたり、機械の故障をまねくおそれがあります。
- 暖機運転中は駐車ブレーキを掛けてください。守らないと何らかの原因で機械が走り出し、事故を起こすおそれがあります。

〔取扱いの注意〕

- セルモータは大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。（10秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って1分以上休止してから手順4以下の操作を繰り返してください。）
- エンジン回転中は絶対にキースイッチを「始動」位置にしないでください。

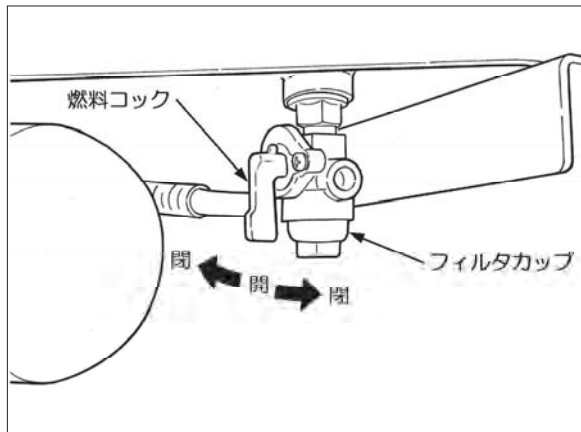
〔参考〕

- 安全スイッチの働きにより、ブレーキペダルをいっばいに踏み込まないと、セルモータが回りませんので、エンジンが始動できません。

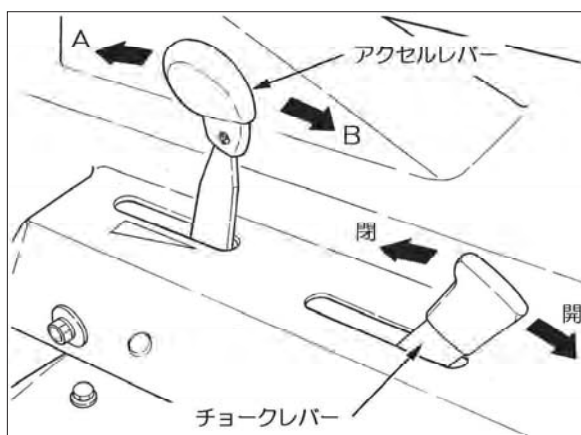
6章 運転と作業のしかた

①始動のしかた

- (1) 燃料コックを「開」にします。



- (2) シートに座ります。
(3) ブレーキをいっぱい踏み込むか、駐車ブレーキをかけます。
(4) 前・後進ペダルがニュートラル（踏み込まない状態）位置にあるを確認します。
(5) リールクラッチレバーを「切」の位置にします。
(6) チョークレバーを「閉」の位置にします。一度エンジンを運転したあと再始動するときはチョークを「閉」にする必要はありません。
(7) アクセルレバーをA（高速）とB（低速）の中間の位置にします。



- (8) キースイッチを時計方向に、「始動」の位置まで一杯回します。
セルモーターが回転し、エンジンが始動します。

●バッテリーを保護するため、キースイッチは一回の始動につき5～10秒間だけ「始動」の位置にし、始動しない場合は、何回かに分けて始動操作をしてください。

●排気口以外から白煙がでるなど、緊急の場合は直ちにキースイッチを「切」の位置にしてください。

(9) エンジンが始動し回転が安定したらチョークレバーを徐々に止まるまで戻します。

(10) アクセルレバーを戻して、アイドルリングの状態为数分間暖機運転をしてください。

〈暖機運転について〉

本機は、全て油圧にて動いています。暖機運転を怠ると油圧システムの故障を引起し、事故の原因になります。

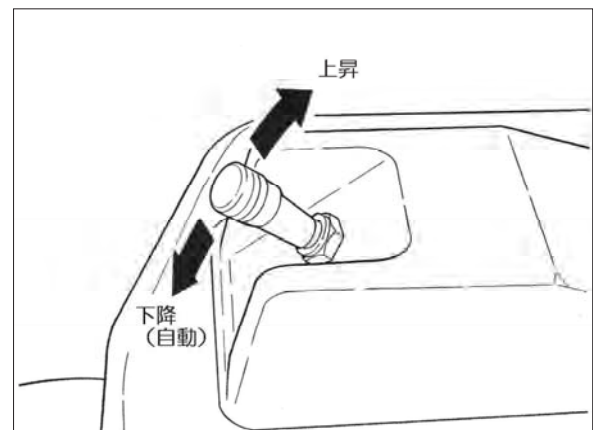
特に寒冷地などで気温が下がって冷え込むと油の粘度が高くなり、油圧の作動が遅くなったり、正常な圧力が得られなくなることがあります。

これを防ぐために必ず、暖機運転を行ってください。

②停止のしかた

アクセルレバーを「低速回転」位置にして、キースイッチを「切」位置にするとエンジンが停止します。

3. モアを上下させるには



モアを上下させるためには、昇降レバーを上昇の方向に動かすとモアは上昇して、下降の方向に動かすとモアは下降します。

昇降レバーから手をはなすと自動的に中立位置に戻ります。

4. 発進・旋回・停止のしかた

警告

- 発進するときは、周囲の人に合図して周囲の安全を確認した上で、急発進しないようにゆっくり発進してください。守らないと、傷害事故を起こすおそれがあります。
- 本機は特殊自動車の型式認定を取得していませんので一般道路（公道）の走行はできません。道路交通法違反になります。
- 作業中および移動中は、安全のためヘルメットをかぶってください。
- 運転者の他に人を乗せないでください。
- 急な発進・旋回・停止やスピードの出しすぎは禁止です。ゆっくり操作してください。

①発進のしかた

- (1) 昇降レバーでモアを上昇させます。
- (2) 駐車ブレーキを解除してください。
- (3) 走行ペダルを踏み込むと本機が動きます。

〔取り扱いの注意〕

- 走行するときはエンジン回転を上げてください。守らないと故障の原因になります。
- 作業速度設定ペダルを操作するときは本機を停止してください。
動いているとき操作すると故障の原因になります。

②旋回のしかた

警告

- 本機を旋回させるときは、十分減速してください。高速のまま旋回すると、横転して傷害事故を起こすことがあります。
- 旋回するときは、作業終了後の地形をよく把握して作業をしてください。

③停止・駐車のしかた

警告

- 本機から離れるときは、地盤のしっかりした平坦で安定した場所を選び駐車してください。
- やむをえず傾斜に停止する場合は、本機を等高線方向にして、前輪に車止めを行なってください。

- (1) 走行ペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏み込んでください。機体が停止します。
- (2) 作業機を完全に下降します。
- (3) 駐車ブレーキをかけます。

5. 作業のしかた

本機には作業機制御にマイコンを使った制御装置が組み込まれて、高い作業能率を発揮します。より安全に完成度の高い作業をするために、以下の説明を十分理解され運転するようにしてください。

警告

- ほ場内の障害物は、あらかじめ取り除いてください。モアの回転刃を痛めるばかりか、モア本体・本機を破損する事故につながり大変危険です。

6章 運転と作業のしかた

①モア使用上の注意

- (1) 初めてモアを使われる方、機械に慣れていない方は平坦な場所で操作を良く覚えてから使用してください。
- (2) 芝刈り作業は、グリーンの大きさ、形状、立木などの障害物の配置により適正な方法を決めてください。

②刈込み作業

- (1) エンジンを始動します。
(P32始動のしかた参照)
- (2) 芝刈り作業開始位置まで本機を移動させます。
(P33発進のしかた参照)
- (3) リールクラッチレバーを入りにします。
- (4) エンジン回転数を最高回転にします。
- (5) 刈り取りボタンを押して点灯させます。
- (6) 昇降レバーを自動側に下げるとモアが下降し回転刃が回転します。
- (7) 前進ペダルを踏み込んで刈り込みます。
- (8) 刈り込みが終了したら昇降レバーを上昇側に上げてモアを上昇させます。

⚠ 注意

- 刈り込み作業終了後は必ず刈り取りボタンを消灯させてください。
- エンジン始動時、グリーン移動時にはリールクラッチレバーを切にするとエンジンへの負荷が軽くなります。

⚠ 危険

- 回転刃が回転中はモアユニットに手足など絶対に近づけないでください。

④芝刈り速度

良好は芝刈り作業を行なうために、刈刃のスピードは常に最高回転になるようにしてください。本機のアクセルレバーをエンジン最高回転の位置にすることで刈刃の最高スピード、エンジンの最高回転出力が得られます。

本機の作業速度は、芝の状態、仕上げ、運転者の慣れなどにより選んでください。過負荷での芝刈り作業は避けてください。

- 作業速度設定ペダル（P27参照）を使用し一定の作業速度を保つことができます。

⑤傾斜地での芝刈り作業

⚠ 危険

- 転倒やスリップの危険性がある場所では運転しないでください。

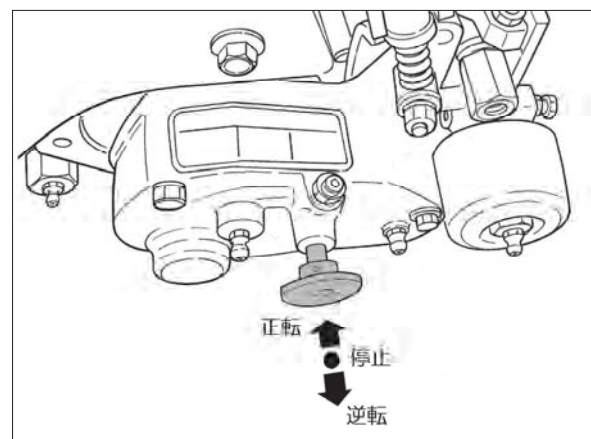
雨上がりなどは特にスリップしやすくなりますので、作業はしないでください。

- 傾斜地では作業前に全体の地形を把握してから作業を行なってください。

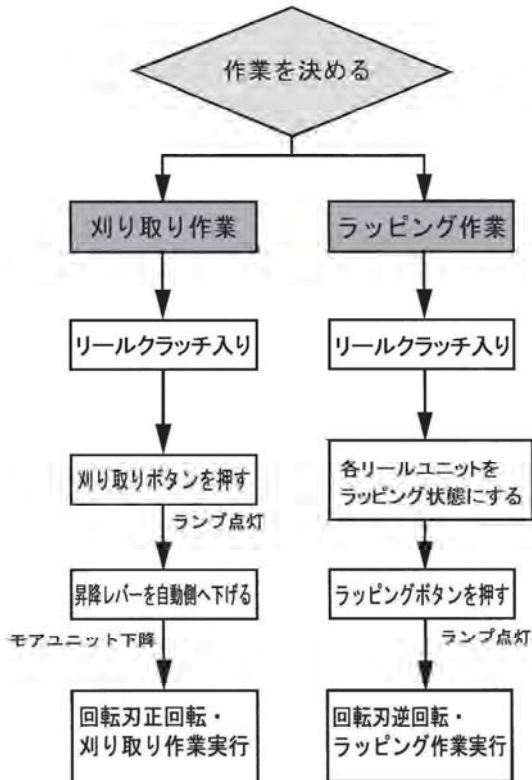
- 旋回は傾斜角度の緩やかな場所で行なってください。
- 15度以上の急傾斜地での作業は、しないでください。

⑥作業ローラークラッチの接続

- クラッチは押し込むと「正転（ギアケース側から見て時計方向）」一段引くと「停止」いっぱい引くと「逆転」の状態になります。



【作業の流れ】



6. トラックへの積み込み・積み降ろしのしかた

警告

- トラックへの積み込み・積み降ろしは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないように 駐車 ブレーキをかけ、車止めをしてください。
- 使用するあゆみ板（道板）は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップしないものを選び、あゆみ板がはずれないように、フックをトラックの荷台にしっかりかけてください。
- トラックへの積み込みは後進で行なってください。
- 車両があゆみ板の上で横すべりしないようにタイヤに付いた泥などを落としてください。
- あゆみ板の上では絶対に方向転換しないでください。方向転換が必要な場合は、いったんあゆみ板より降りてからやり直してください。

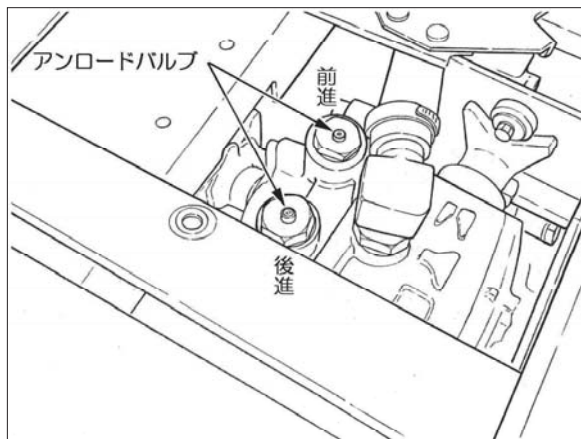
①あゆみ板による積み込み・積み降ろし
〈あゆみ板の基準〉

- 長さ・・・車の荷台高さの3.5倍以上
- 幅・・・40cm以上
- 強度・・・2000kgに十分耐えられるもの
- 表面が滑らないように処理してあること
- あゆみ板は、左右段違いにならないようにし、また荷台中心に対して左右均等な位置へ確実に取り付けます。

6章 運転と作業のしかた

8. 自走できなくなった時の牽引

- 万一油圧系統などの故障で自走できなくなったとき、油圧回路を開いてタイヤが牽引したとき回って移動ができる状態にすることができます。
- アンロードバルブを押すと、油圧回路が開き自走する状態にすることができます。アンロードバルブは前後進2個あり、進行方向右が前進、左が後進です。
- 牽引走行を行なうときは、本機を次の状態にしてから行なってください。
 - (1) エンジンは停止してください。
 - (2) シート下部のアンロードバルブの前後進どちらかを押します。

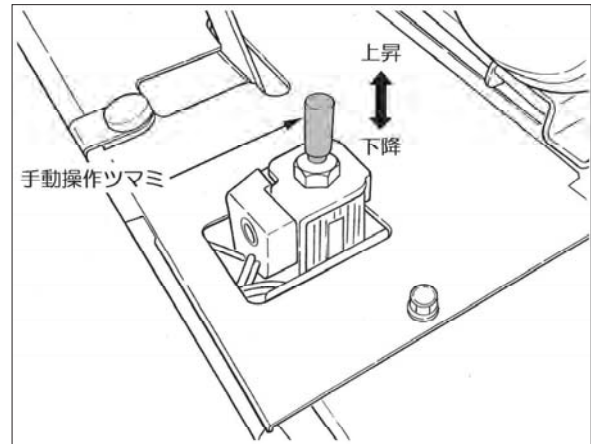


⚠ 注意

- エンジンを停止した状態で牽引してください。

9. モアが昇降しない時

- 万一電気系統などの故障により、昇降レバーでモアが上げ下げできなくなったときは、バルブが直接手で操作し、昇降させることができます。



〈積み込み〉

- (1) 作業機を上昇します。
- (2) あゆみ板に対してまっすぐに方向を定めてゆっくり積み込みします。
- (3) 落輪しないように、ハンドルは慎重に操作してください。
- (4) 積み込みが終了したら、キースイッチを「切」にして、ロープで車両を確実に固定してください。

〈積み降ろし〉

- (1) 積み込みと逆の手順で行なってください。

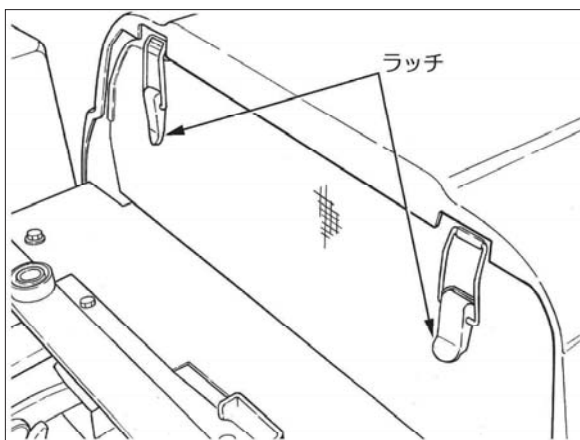
②運搬の方法

⚠警告

- じょうぶなロープを車両に掛け、確実に固定してください。守らないとトラックのブレーキを急にかけた時などに、車両が荷台から転落し思わぬ傷害事故の原因になります。

⚠注意

- トラックでの運搬時は、ボンネットが開かないようにロック用キャッチで固定してください。守らないと、風などによりボンネットが開いて、思わぬ事故の原因になります。



7. パワーステアリングについて

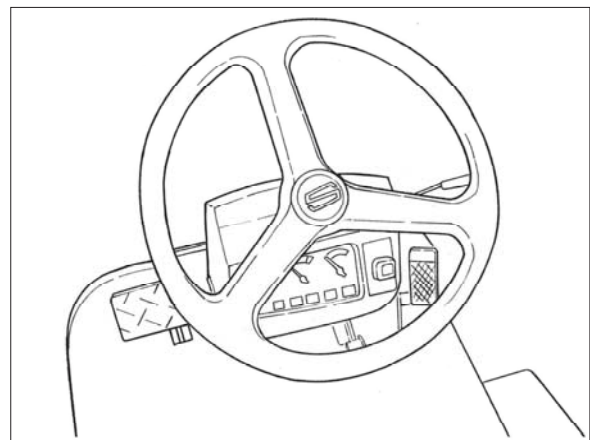
⚠注意

- エンジンの運転中は、ハンドル操作が大変軽くなっていますので、高速走行時など、慎重に行なってください。守らないと、事故を起こすおそれがあります。

パワーステアリングは、エンジン運転中のみ作動します。ただし、エンジン回転が低速の場合は、多少ハンドルが重くなる場合がありますが異常ではありません。

〔取り扱い注意〕








- ハンドルをいっぱい切るとリリーフ弁が働き、信号音がでます。短時間であればかまいませんが、この音が鳴ったままで運転しないでください。
- 走行しないでハンドルを切る（スエ切り）ことは、タイヤやリムなどの損傷を早めますので、必要とき以外は操作しないでください。



6章 運転と作業のしかた

9. 絵文字の説明

(この リール モアに使用している装置のマークは下記のとおりです。)

 積算時間 (計)	 燃料 (計)	 駐車ブレーキ
 チョーク	 低速	 高速
 バッテリー		

7章 作業後の手入れのしかた

1. 作業後の手入れ

⚠ 危険

- シートをかける場合はエンジンを停止し、エンジンやマフラーが十分冷えたことを確認してからかけてください。守らないと、火災を起こすおそれがあります。

使用後は機械を水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各グリス注入部（グリスニップル）にグリスアップを行なってください。

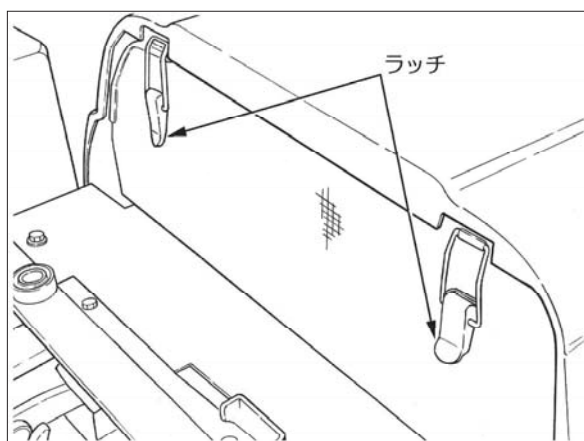
⚠ 注意

- 点検・整備・修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと機械に巻き込まれて、傷害事故を起こすことがあります。
- 点検・整備をするときは、マフラーやエンジンの過熱部分が十分に冷めてから行なってください。守らないと、やけどを負うおそれがあります。

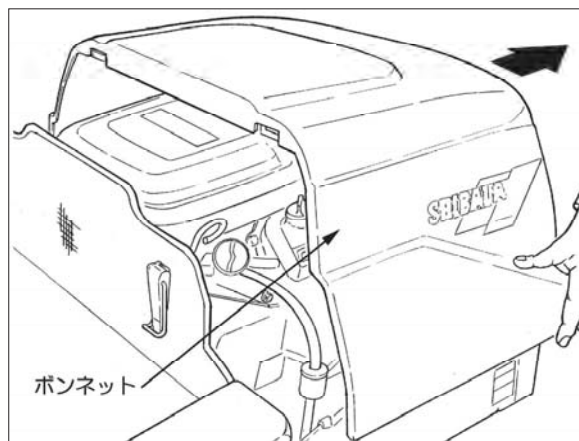
〔取り扱いの注意〕

- 電装品にはできるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因となります。

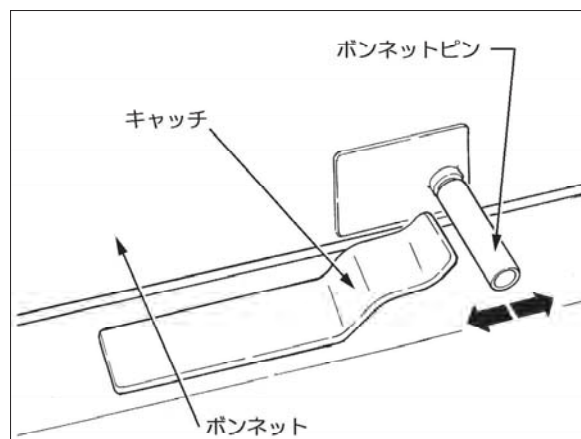
2. ボンネットの着脱のしかた



- (1) ボンネットのラッチを外し、ボンネットを後に引いてください。



フレームのキャッチ部からボンネット内側のピンが外れますので、ボンネットを取り外すことができます。



- (2) ボンネットを装置する場合は、ボンネットピンをキャッチに合わせ押し込み、ラッチで固定します。

3. 長期間使用しない場合の手入れ

警告

- 格納する場合は、バッテリーを取り外し、キーを抜き取り保管してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

車両を長期間（1ヶ月以上）使用しない場合は、次の要領で整備し格納してください。

- (1) 乾燥した風通しの良い所で作業機を降ろした状態にして、下には板を敷いてください。
- (2) 外部の錆びやすい部分に防錆油、またはエンジンオイル・グリスを塗ってください。
- (3) 燃料タンクには燃料を満タンにしてください。空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。燃料コックは「OFF」（閉の状態）にしてください。
- (4) バッテリーを完全に充電し、なるべく本機から取り外して、風通しの良い冷暗所に保管してください。また車両に取り付けたまま保管するときは、必ずアース側（一側）を取り外してください。
- (5) キーを抜き取り、車両以外の場所に保管してください。

〔取り扱いの注意〕

- バッテリーは使わなくても自然放電します。1ヶ月に一度は充電器で完全充電してください。

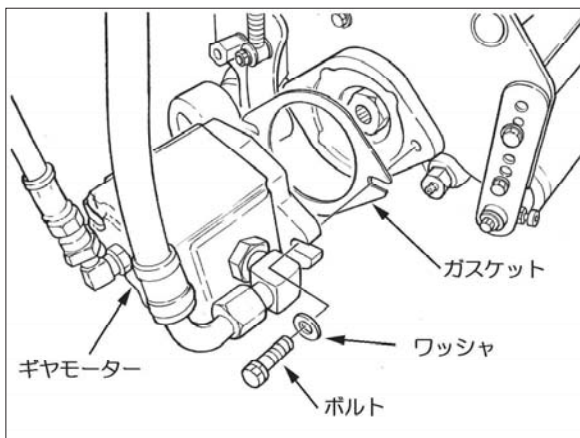
8章 モアの取り扱い

1. モアの取り外しのしかた

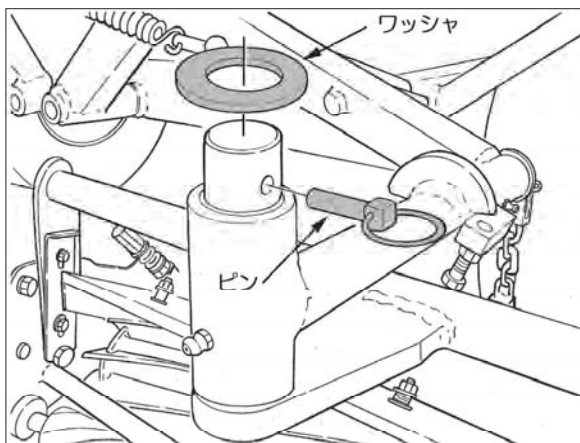
⚠ 警告

- 作業を行う前に必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてください。
- モアの取り付け、取り外しは平坦で安定した場所で行なってください。夜間は適切な照明をしてください。守らないと、事故を引き起こすおそれがあります。

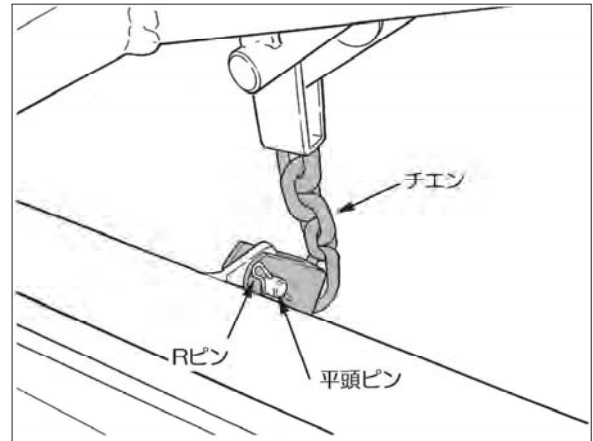
(1) モアユニットを下降させてください。



(2) ギヤモーターを固定しているボルトを外してギヤモーターを外してください。



(3) ピンを抜き、ワッシャを外します。



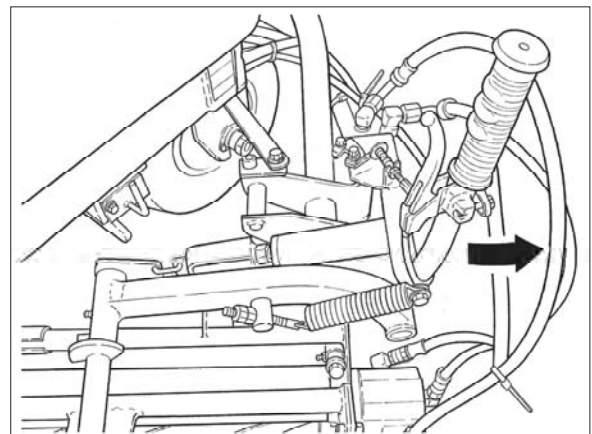
(4) Rピン・平頭ピンを抜き、吊上げチェーンを取り外してください。

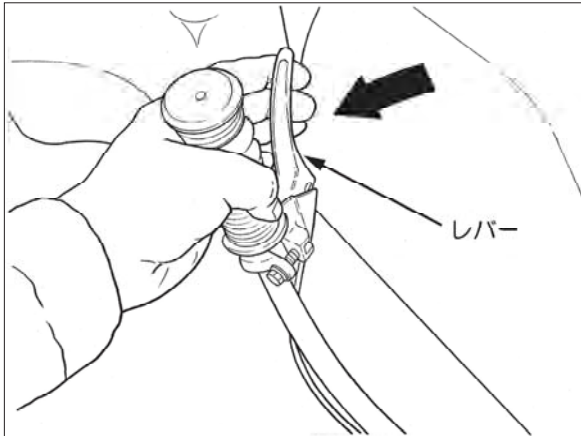
●モアの取り付けは前述の逆の順番で行なってください。

〔取扱い注意〕

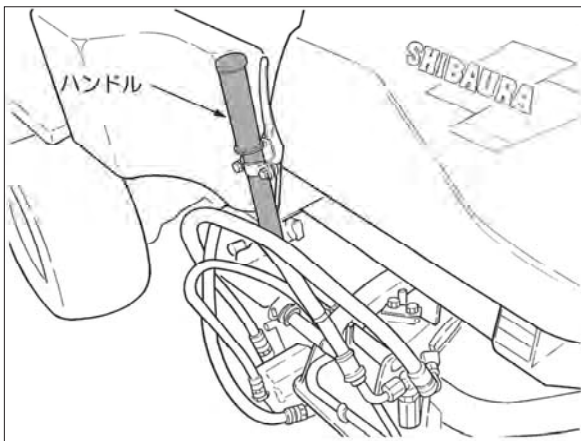
●ギヤモーターの取り付けは、回転刃の動きが重ならないように2本のボルトを均等に締付けてください。

(5) リアユニットは外に引き出すことにより、着脱が容易におこなえます。

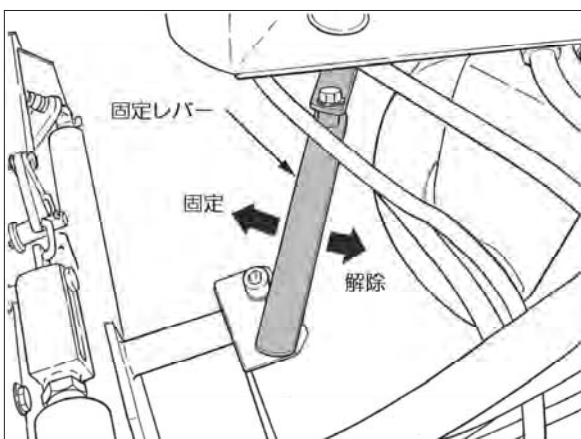




- (6) レバーを握りロックを解除します。「カチッ」と音がしたらレバーを放します。



- (7) ハンドル部を握りリヤユニットを引出します。



- (8) 引き出した後、固定レバーを固定側に当ててください。

- (9) 格納は固定レバーを解除したあと、確実にロックされるまで引出しアームを戻します。ハンドルを引いて確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 危険

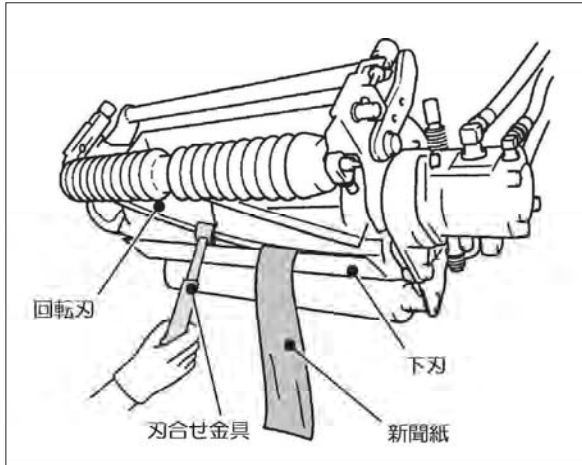
- 引き出し操作を行うときは、必ず平坦な場所で、エンジンを停止させてから行ってください。
- 引き出し、格納するときには引出しアームの周辺や本機との間に人が入らないようにしてください。傷害事故をおこすおそれがあります。
- 引出しアームは格納後ハンドルを引いて確実にロックされていることを確認してください。ロックが確実におこなわれずに走行すると、アームが開き事故をおこす可能性があります。
- 引出しアームが開いた状態で本機を走行させないで下さい。開いた状態で走行すると機械を損傷したり事故をおこす可能性があります。

2. 切れ味の調整

- 本機は出荷時に輸送などにおける回転刃による事故を防止するため、回転刃と下刃の間隔を広くしてありますので、芝刈作業前に間隔を調整する必要があります。
- 使用中に切れ味が悪くなった場合は回転刃を研磨し直し、回転刃を研磨し直し、回転刃と下刃の間隔を調整する必要があります。

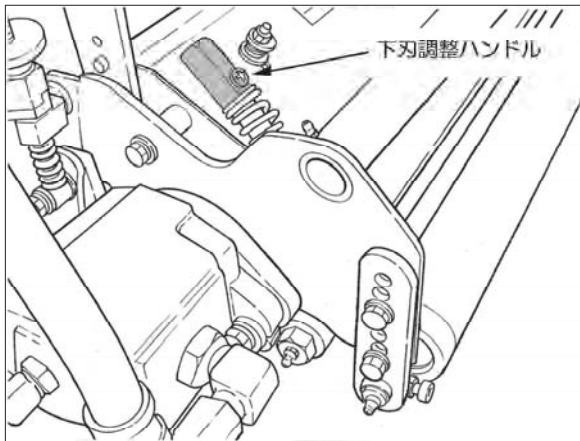
⚠ 危険

- 調整を行なうときは、必ずエンジンを停止させ、刈刃の回転が止まってから行なってください。
- 回転刃の回転は必ず刃合わせ金具を使用してください。
- 回転刃に手で直接触れないで下さい。



- (1) 回転刃の中央、左右の3ヶ所について短冊型に裂いた新聞紙を回転刃と下刃の間にはさみ、刃合せ金具で回転刃を下刃の方向に回し、切れ味をテストしてください。

●間隔が広すぎる場合は次項の手順で調整してください。



- (2) スパナで調整ハンドル(右・左)を時計方向に回し、回転刃と下刃の間隔をせまくしてください。

●回転刃と下刃の間隔は調整ハンドルを時計方向に回転させるとせばまり、反時計方向に回転させると広がります。

- (3) 回転刃の中央、左右の3ヶ所について短冊型に裂いた新聞紙で切れ味をテストし、新聞紙がよく切れるまで調整を繰り返してください。

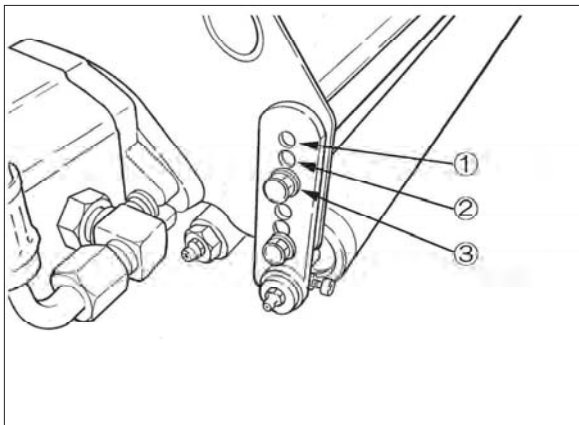
- 全てのブレードで新聞紙がどの位置でも同じように切れるようになり、回転に異常がないことを確認してください。
- 調整しても切れ味が向上しないときはラッピング(研磨)してください。
(P47ラッピング(研磨)による切れ味調整参照)

8章 モアの取り扱い

3. 刈り高さの調整

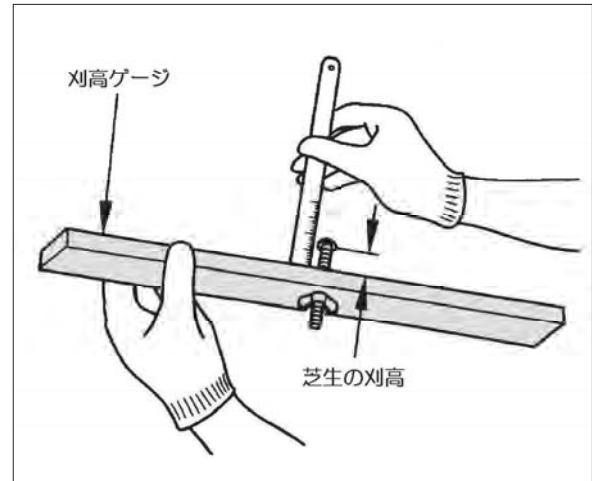
- 刈高の調整は回転刃と下刃の刃合わせをしてから行なってください。
- 刈高の調整は1ヶ所だけでなく3ヶ所のモアユニットすべてを行なってください。
- 芝生を必要な高さに、刈りそろえるには、前ローラーと後ローラーの高さを調整して行ないます。
 - (1) モアを上昇させエンジンを停止してください。
 - (2) リヤユニットを引き出してください。
(P42参照)
 - (3) 後ローラーブラケットが希望の刈高範囲になっているか確認してください。
出荷時は下表の③の位置になっています。

刈高範囲による後ローラーブラケット締付位置

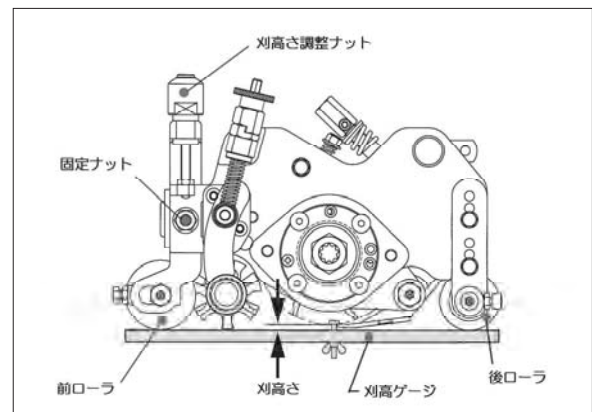


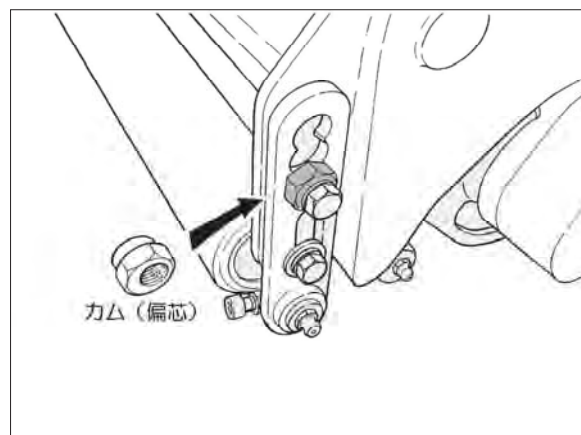
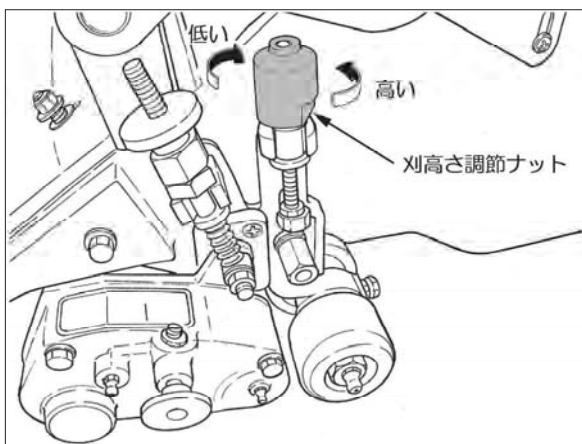
ブラケット 締付け位置	③	②	①
刈高さ (mm)	10以下	10~20	20~30

- (4) 刈高ゲージのネジの蝶ナットをゆるめ、ネジ頭の底部とゲージの間（ネジの首下）を物差しで測り、刈高と同じ寸法になるように調整し、蝶ナットを締めてネジを固定してください。
- この寸法が芝生の刈高になります。

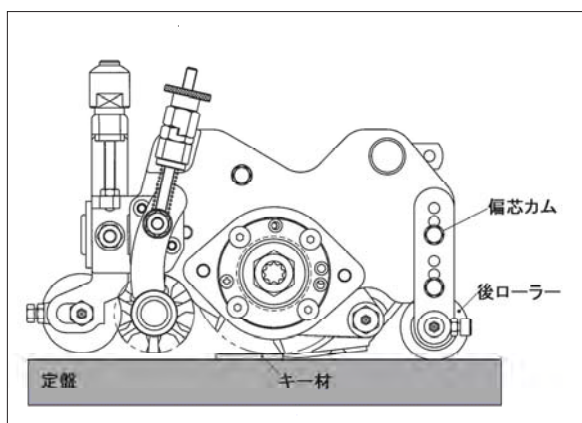


- (5) 前ローラーブラケットを固定しているナットをゆるめてください。
- (6) 前ローラーの地表に接触する部分と後ローラーに刈高ゲージを当てゲージ中央部のネジの首下が下刃上面と一致するように調整ノブで調整してください。





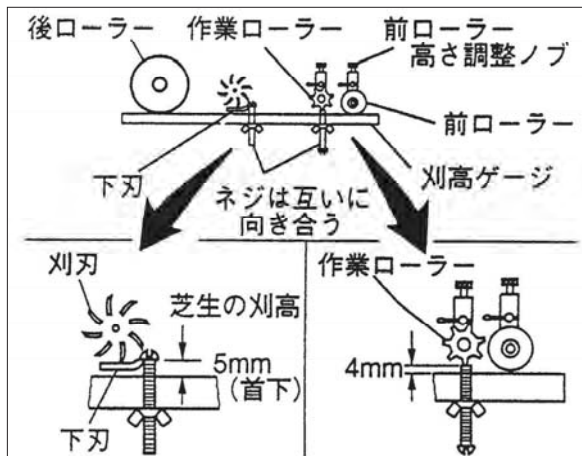
- (7) この調整を左右で同じように行ないます。
 - (8) 調整が終わりましたら、固定ナットを締め付け前ローラーブラケットを確実に固定してください。
 - (9) 後ローラー位置を変更したときには、回転刃との平行調整をする必要があります。(出荷時は調整済みです)
- 後ローラーブラケットの希望の穴位置に片側は偏心カムを入れボルトで軽く固定します。
 - モアユニットを外し (P41参照) 定盤の上に置きます。回転刃の真下と下刃の先端に当るように5~6mmのキー材を左右両側2ヶ所に置きます。



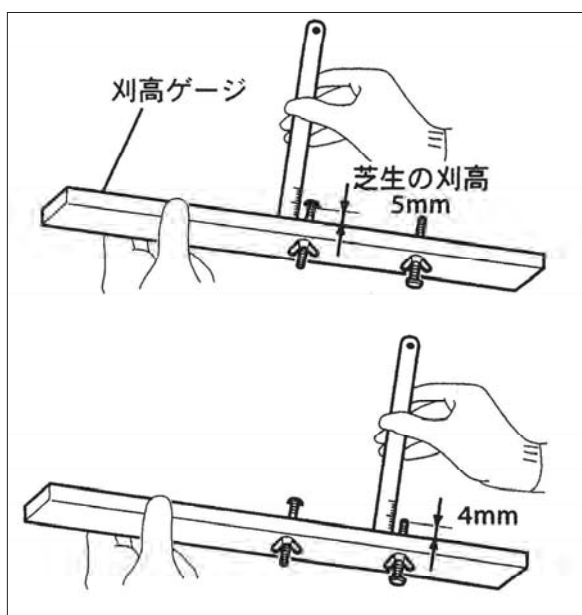
- このとき前ローラー・作業ローラーは定盤に当たらないように上げておきます。
- 回転刃をキー材に当てたまま後ローラーの下に短冊状の新聞紙を入れ、定盤と後ローラーのすきまを確認します。幅方向左右とも定盤に当り新聞紙が入らないように偏心カムを回し調整します。(又は0.1mmシクネスゲージ)
- すきまの調整が終わったら偏心カムが回らないように押さえながら後ローラーブラケット固定ボルトを締付けます。

4. 作業ローラーの調整

- 刈り高さの調整はP44で説明していますが、ここでは、作業ローラーの調整について説明します。
- 刈り高さを5mm、作業ローラーを4mmにする場合を例に説明します。

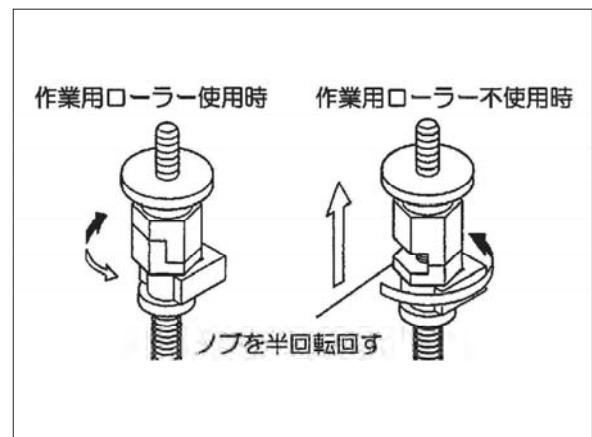


- (1) 刈高ゲージの2ヶ所のネジが図のように互いに向かい合うようにセットします。
 - (2) 刈高ゲージの中央のネジ頭の底部とゲージの間（ネジの首下）を5mmに調整し、蝶ナットで固定します。
- この寸法が芝の刈高さになります。
- (3) もう一方はネジの先端が刈高ゲージから出る高さを4mmに調整し、蝶ナットで固定します。
- この寸法が作業ローラーと地表の間隔になります。



- (4) 作業ローラー高さ調整ノブ（左、右）の固定用高ナットをゆるめてください。
 - (5) 刈高さ調整後、前ローラーと後ローラーの下面に刈高ゲージを当て、ゲージのネジの突き出した先端が、作業ローラの先端に接触するように、作業ローラーノブを回してください。
- 調整ノブは時計方向に回すと作業ローラーが上がり、反時計方向に回すと下がります。
- (6) 左右について高さ調整を行ない、作業ローラーの位置が決まったら固定用の高ナットを確実に締め、作業ローラーの高さを固定してください。
 - (7) 作業ローラーを使用しないときは、都度調整をおこなわなくても、5mm程上げておくことができます。

左右の固定用の高ナットをゆるめ、作業ローラーノブを引き上げたまま半回転させ、下図の「作業ローラー不使用時」の状態にしてください。



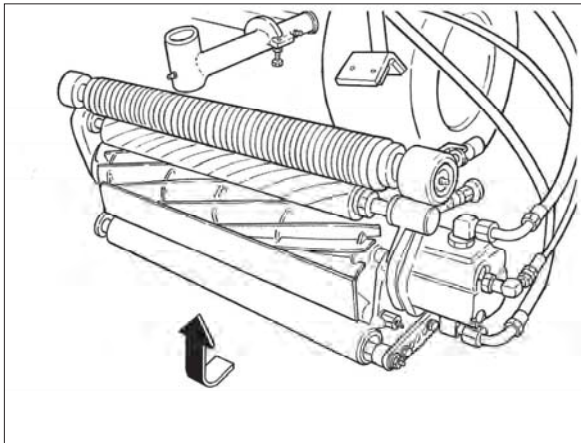
- 作業ローラーの高さ調整は「作業ローラー使用時」の状態で行ってください。

5. ラッピング（研磨）による切れ味の調整

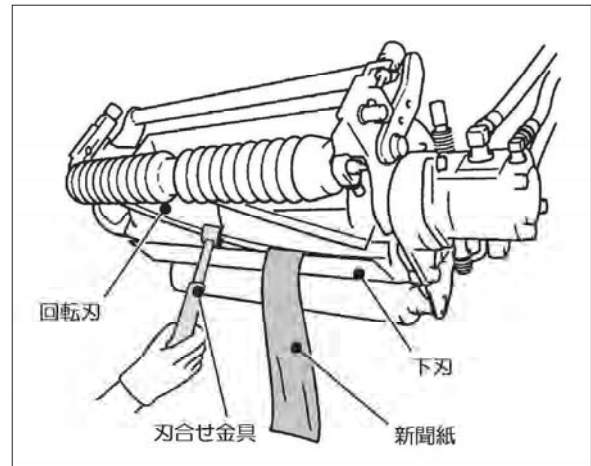
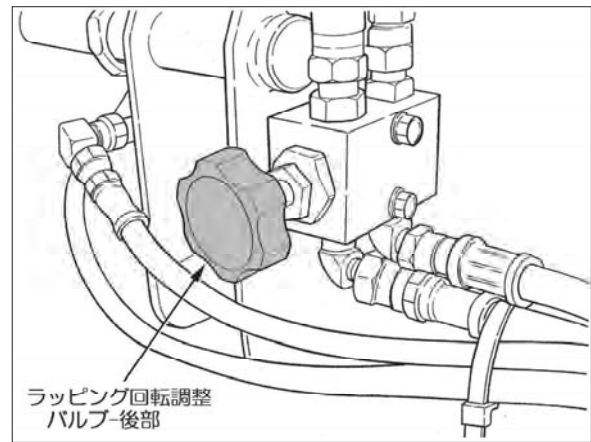
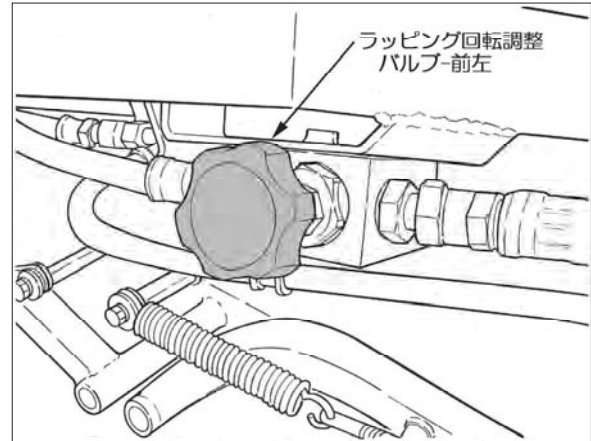
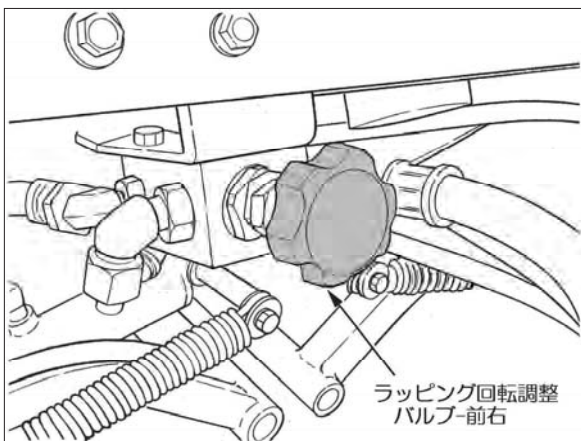
⚠ 警告

- 回転刃を手動で回転させるときは必ず刃合わせ金具を使用してください。
- 回転半径内に、手足顔を近づけないでください。
- 衣類が回転物に巻き込まれることのないよう、作業に適した服装をしてください。
- 研磨剤は、必ずブラシで回転刃に塗布してください。

- (1) リヤユニットを引出し位置にしてください。
(P42参照)
- (2) モアを下降させエンジンを停止してください。
- (3) モーターは付けたままモアを外し（P41参照）、立ててメンテナンス姿勢にします。



- (4) 切替バルブのノブのロックをゆるめ、ノブをひらく側に動かなくなるまで回してください。（3ヶ所）



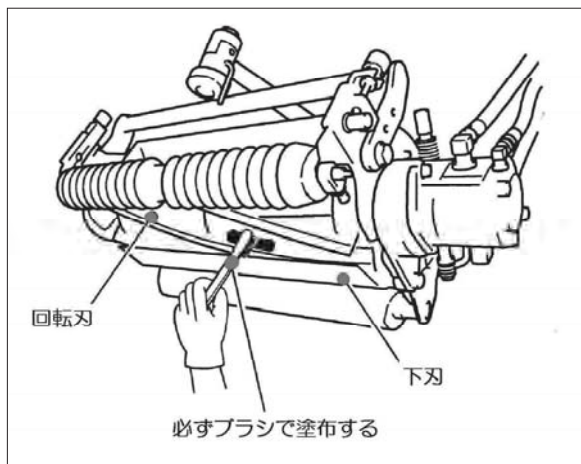
- (5) 短冊型に裂いた新聞紙を回転刃と下刃の間にはさみ、刃合わせ金具でリール刃を反時計方向に回して切り、切れ味をテストして切れ味のよいところにチョークなどで印をつけてください。
- 切れ味の確認のためにブレード1枚、1枚について、回転刃の全巾にわたってこのテストを行ないます。

8章 モアの取り扱い

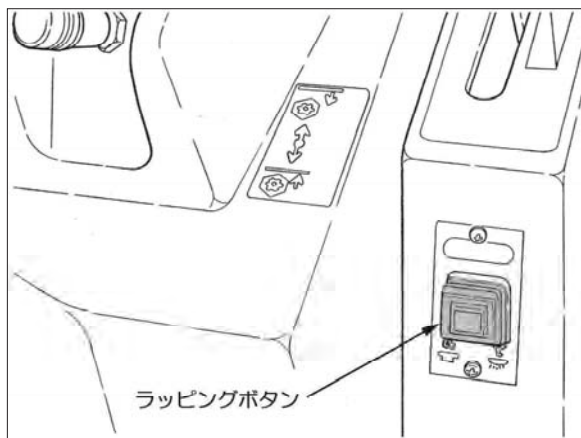
(6) ブラシに研磨剤をつけ、前頁(5)項で印をつけたところの回転刃の上面に均一に塗布してください。

●切れる部分にコンパウンドの塗布をするのは、切れる部分が高く、切れない部分が減ってしまって低くなっているため、高い部分の刃を磨り落とし、下刃に対して回転刃の高さを均一にするためです。(切れ味の悪い箇所には絶対に研磨を塗らないでください。)

●研磨剤はラッピングコンパウンド(#180～#220)とオイル(または中性洗剤)を1:3～4の割合で混合したものを使用してください。



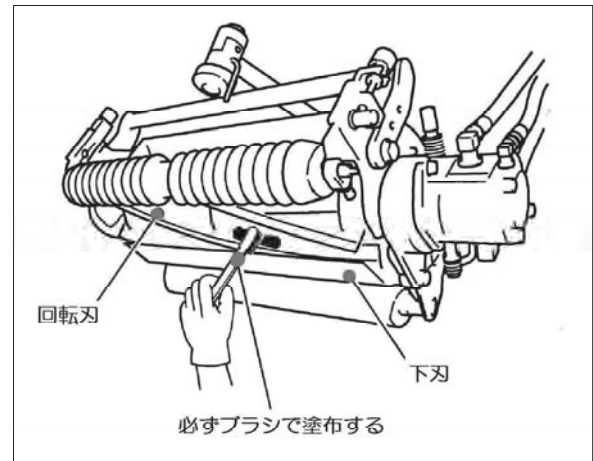
(7) エンジンを始動して、ラッピングボタンを押して点灯してください。



(8) 切替バルブのノブをとじる側に除々に動かしてください。回転刃が逆回転を始めます。そのままノブを動かなくなるまで回してください。

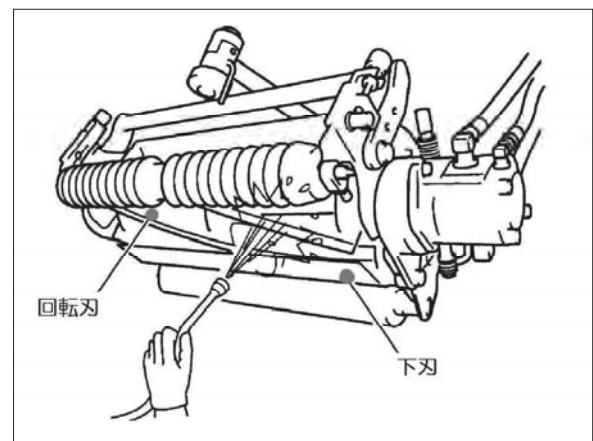
(9) しばらく研磨して接触音がなくなったら切替バルブをひらく側に回して回転を止めエンジンを停止します。

(10) 段階的に研磨剤を塗る箇所を切れなかった(5)で印をつけなかった)箇所に広げて研磨作業を繰り返します。



(11) 全体に回転刃を研磨したらエンジンを停止して、研磨剤を回転刃に均一に塗布して約1分間仕上げ研磨をしてください。

(12) 仕上げ研磨を終了したら回転刃と下刃を水でよく洗い流し研磨剤を取り除いてください。



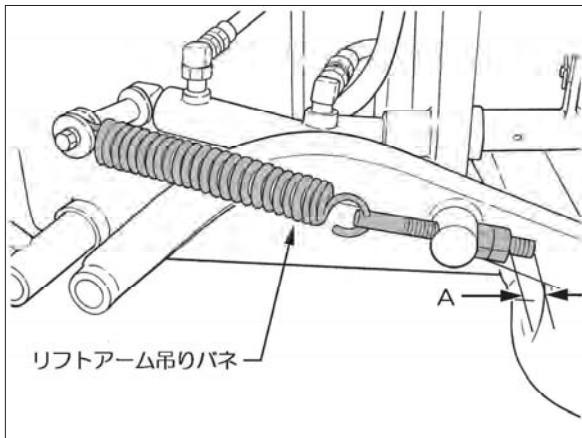
(13) 切れ味をテストしながら調整してください。(P47切れ味調整参照)

(14) 調整が終わりましたら、切替バルブのノブをとじる側に動かなくなるまで回してロックしてください。

6. リフトアーム吊上げスプリング

●各モアには、リフトアーム吊上げスプリングが付いています。

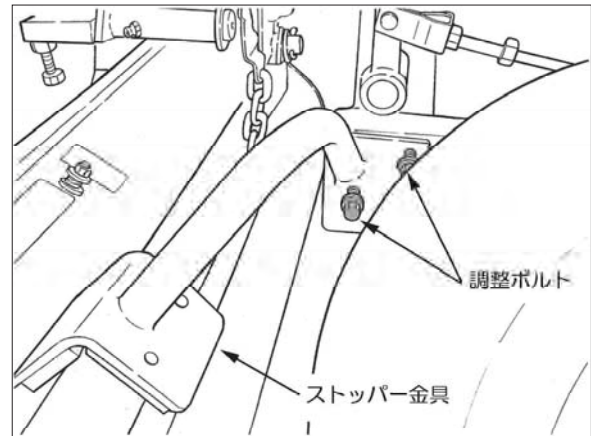
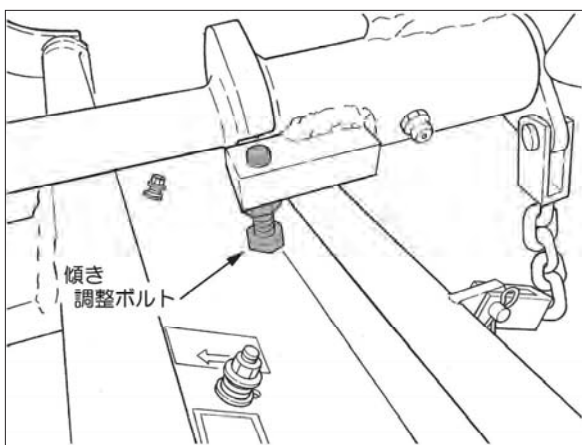
スプリングはリフトアームの重量を受けモア重量だけがグリーンにかかるように調整されています。刈り込み品質を最適化するため スプリングを点検してください。



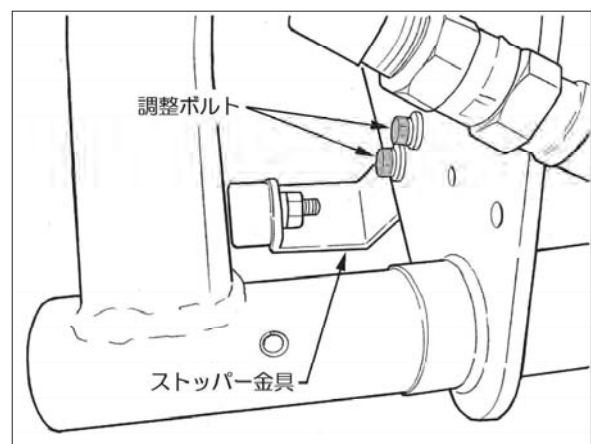
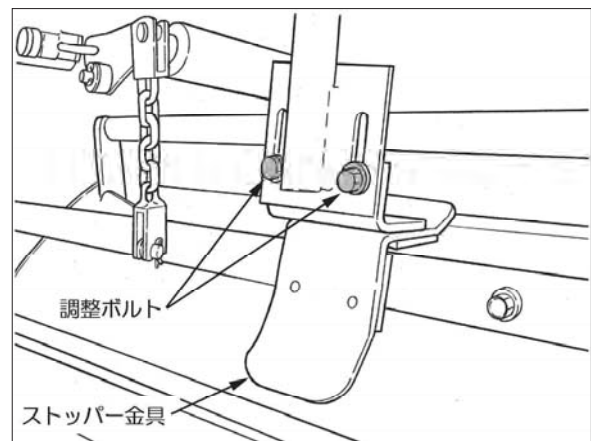
●出荷時はAの寸法がフロントユニットの2連は15.5mm、リヤユニットは18.5mmに調整されています。

7. ストッパーの調整

●コース間移動時にモアの損傷を防止するために、各モアユニット部にストッパーが設けてあります。出荷時には調整してありますが、モアのゆれが大きくなった時には各ストッパーを再調整してください。



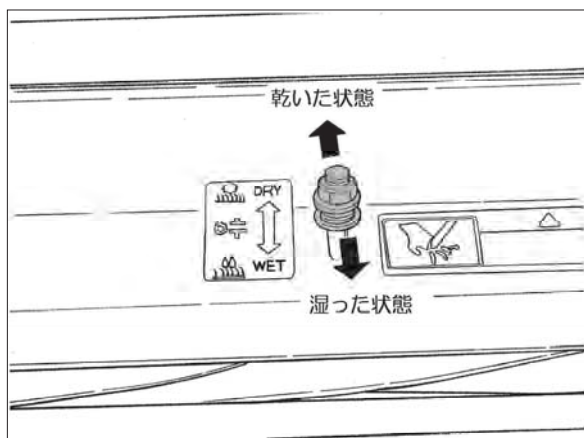
- (1) フロントは左下図の「傾き調整ボルト」で傾きを調整し、両外側のストッパー金具にモア後部のパイプが当り、揺れが止まる程度に合わせます。
●強く当てすぎるとストッパーやモアに無理がかかり、損傷することがありますので注意してください。
- (2) リヤも同様に左下図の「傾き調整ボルト」で傾きを調整し、下図の左右ストッパー金具がモア後部のパイプに当る程度に調整してください。



8. 遮風板の調整

⚠ 警告

- 必ずエンジンを停止し、モアを下げて調整してください。
 - バケットへの刈り芝の飛び方は、芝の状態によって変わります。一度芝を刈り、結果をみて調整してください。
 - 調整することにより、刈り芝の飛び方が変わります。
- (1) カッターカバーの上面にある両左右のナットおよびスプリングを両手で持ち、前後に動かしてください。



- 芝が濡れている時や、走行スピードが遅い時、刈刃回転が遅い時は、遮風板を手前（前方）の位置にしてください。
- 芝が乾いている時や、走行スピードが速い時、刈刃回転が速い時は、遮風板を奥（後方）の位置にしてください。

9章 定期の点検・整備のしかた

警告

- 点検・整備は、交通の危険がなく車両が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、駐車ブレーキを掛け、車止めをしてから行なってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。

注意

- 半年毎に定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料パイプ、パワーステアリングホースは2年毎に交換してください。守らないと整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。
- 点検・整備・修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。
- 点検・整備などで取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。守らないと、機械に巻き込まれて傷害事故をおこすおそれがあります。

点検・整備を毎日行なうことにより、機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行なえます。

機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、半年毎に販売店で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。特に燃料パイプ・パワーステアリングホースなどの、ゴム類や電気配線は2年毎に交換するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行なえるようにしてください。

9章 定期の点検・整備のしかた

1. 定期点検一覧表

本機

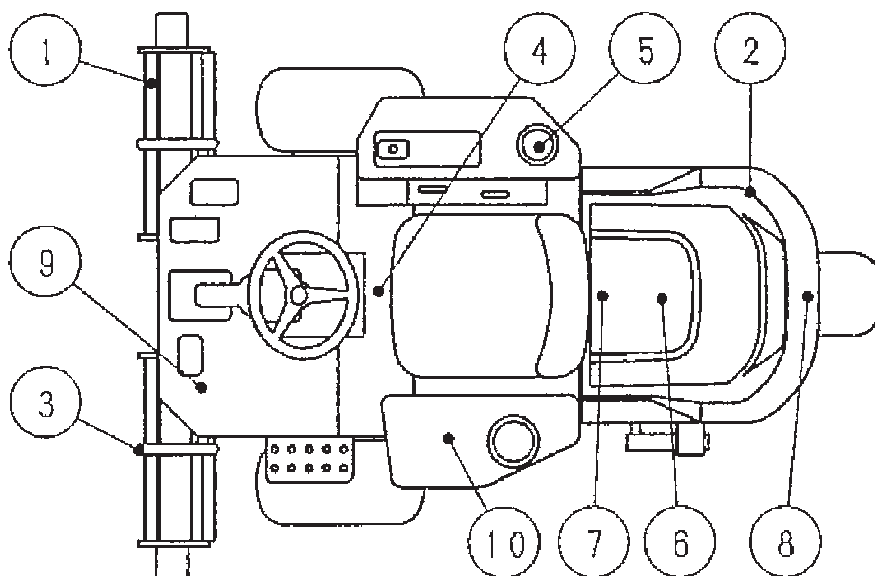
○ 点検 ● 交換

アワメータ表示時間 実施項目	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	参 考 ページ	
	時間 目	時間 目	時間 目	時間 目	時間 目	時間 目	時間 目	時間 目	時間 目	時間 目	時間 目	時間 目		
エンジンオイル	最初の8時間経過後、8時間ごとまたは毎日点検												54	
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
HSTオイル	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	●	55
エンジンオイルフィルタ	●		●		●		●		●		●		56	
油圧オイルフィルタ	●						●						57	
HSTオイルフィルタ	●						●						57	
サクシヨンストレーナ						●						●		
燃料フィルタ(エレメント)	100時間毎に洗浄、600時間毎に交換												57	
		洗浄		洗浄		洗浄		洗浄		洗浄		●		
エアクリーナエレメント	始業時か10時間毎に点検、100時間毎に掃除、6回掃除の後に交換												58	
リールクラッチベルト	○	○	○	調整	○	○	○	調整	○	○	○	調整	62	
バッテリー液	25時間毎に点検												59	
グリスアップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	60	
タイヤ空気圧	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	63	
タイヤホイール締付トルク	○				○				○				63	

2. オイル・グリス・不凍液について

燃 料	(F)	無鉛ガソリン
エンジンオイル	(E.O.)	10W-30 (API分類SF、SG、SH、SJ級以上)
油圧オイル	(H.O.)	シバウラHSTオイル
グリス	(C.G.)	万能グリスNo.2
バッテリー液	(D.W.)	蒸留水

3. 給油・給水一覧表



給油 メンテナンス 項目	給油の 種類	給油 量 (L)	点検 給油 時間	交換 時間	サー ビス 箇所
① 作業機 (リール)	C. G.		50		30
② ホンフクラッチ系	C. G.		50		2
③ リフトアーム関係	C. G.		50		10
④ オイルタンク	G. O.	23	50	600	1
⑤ 燃料タンク	F.	20	始動前		1
⑥ エンジンオイル	E. O.	1.6	8	50	1
⑦ ジョイント	C. G.		50		1
⑧ ステアリング系	C. G.		50		3
⑨ プレーキシャブド	C. G.		50		2
⑩ バッテリー	D. W.		50		1

使用オイル

E. O.
ガソリンエンジンオイル
オールシーズン: SAE10w/30
-5°C~25°C: SAE20W
10°C~35°C: SAE30
G. O.
HSTオイル ISO VG46相当
C. G.
シャーシグリス又は万能グリスNo2
F: 無鉛ガソリン
D. W: 蒸留水

注意

E. Oは初8時間、G. Oは初50時間で交換して下さい
給油時には、エンジンを停止し火気厳禁に注意して下さい。

上記以外の各ピン、リンク部へも適宜注油して下さい。

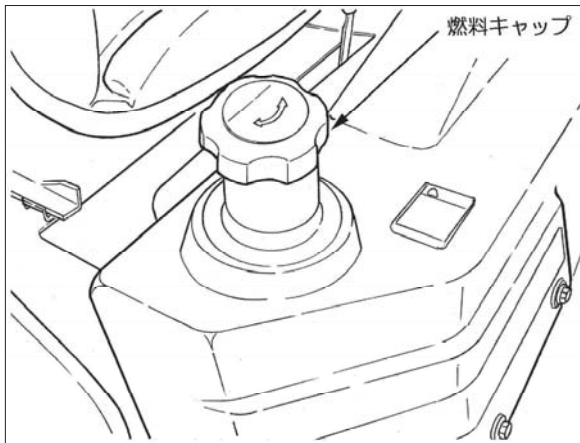
9章 定期の点検・整備のしかた

4. 燃料の点検・給油のしかた

⚠ 危険

- 燃料補給は、くわえ煙草や裸火照明は絶対にしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、絶対に給油しないでください。守らないと、火災を起こすおそれがあります。

- (1) 燃料計で残量を点検して、少ないようでしたら本気左側の燃料キャップを外し、給油口より補給する。



〔取扱いの注意〕

- タンク内の燃料が少ないと、斜面走行時に燃料切れをおこす可能性があります。早めに給油してください。
- きれいで新しい無鉛ガソリンを使用してください。

⚠ 危険

- 給油は燃料計でFULLになったら、それ以上は入れないでください。(給油口から17cm下まで) 守らないと、傾斜地で燃料があふれ、火災を起こす恐れがあります。

5. 各部のオイルの点検・交換のしかた

⚠ 危険

- エンジン回転中やエンジンが熱いときは、絶対に注油しないでください。守らないと、火災やヤケドをおこすおそれがあります。

⚠ 注意

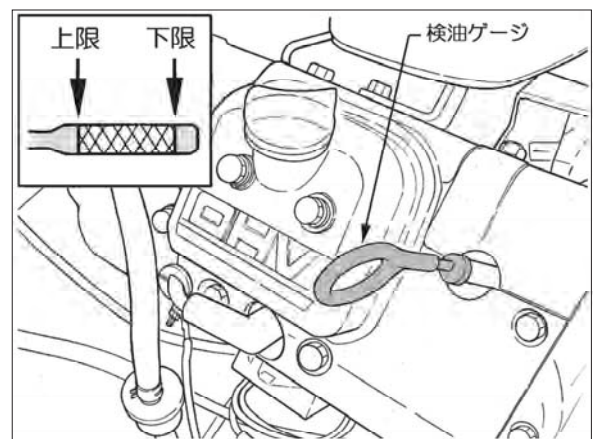
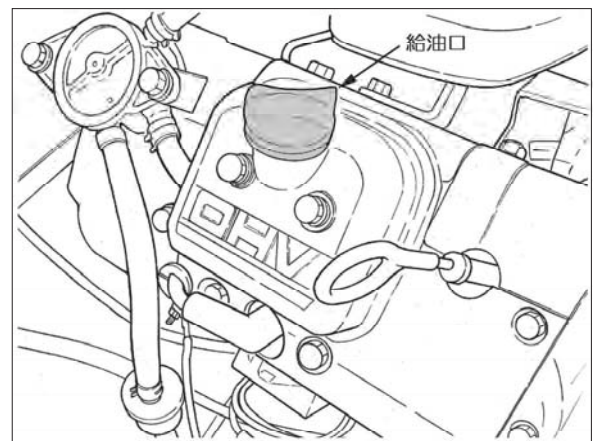
- エンジン停止直後のオイル交換はしないでください。守らないと火災やヤケドをおこすおそれがあります。

①エンジンオイル

最初は8時間、2回目以降は50時間毎に交換して下さい。

点検

検油ゲージを抜いて先端をきれいに拭いてから差込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より検油ゲージ規定量まで入れてください。

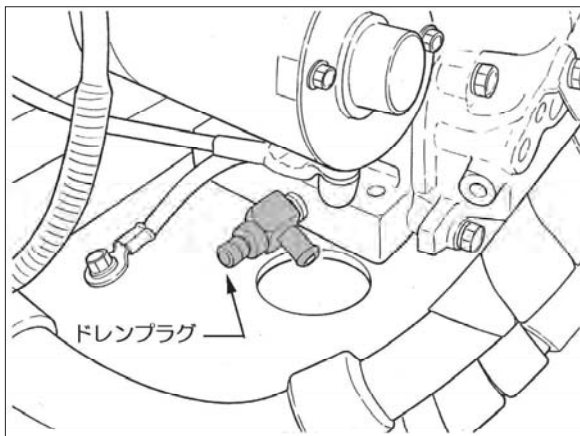


〔取り扱いの注意〕

- オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。
- オイルの量を点検するときは水平な所に止め、水平な状態で点検してください。
- 交換した排油は絶対に川や下水道に流したりせず、専門の業者に引き取ってもらうなどの適切な方法で処分してください。

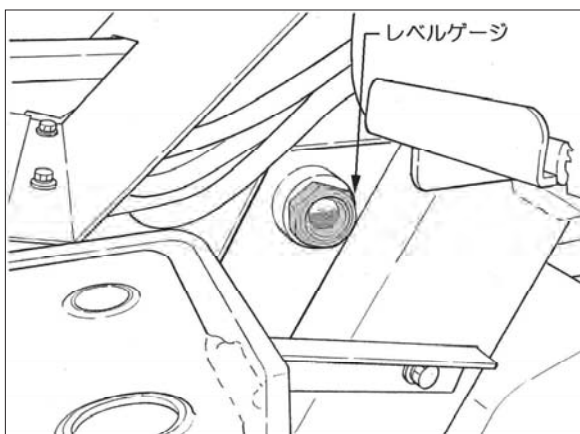
交換

エンジン下部のドレンプラグより排出してください。完全にオイルが排出されたらドレンプラグを締め、新しいオイルを給油口から入れてください。

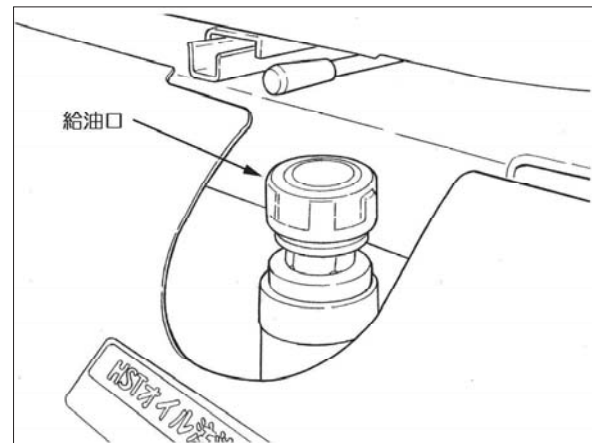


②HSTオイル

HSTオイルは300時間毎に交換してください。作業機を下降させて油圧タンク 左側 のレベルゲージの油面を確認し、中心より下にある場合は給油口より規定量（レベルゲージの1/2～2/3）まで入れてください。



給油口の外し方



先端のプリーザキャップごと反時計回りに回すと外れます。

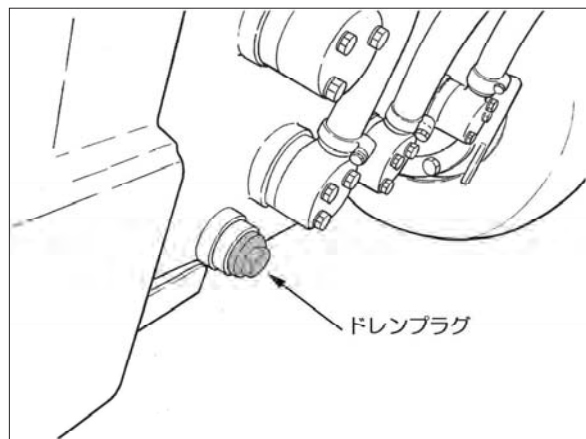
給油後、手で回し締付けてください。

9章 定期の点検・整備のしかた

交換

油圧オイルタンク下部のドレンプラグより排出してください。オイルを抜くときは、オイルが暖かいうちに抜くときれいに抜けます。(熱いオイルに注意してください。)

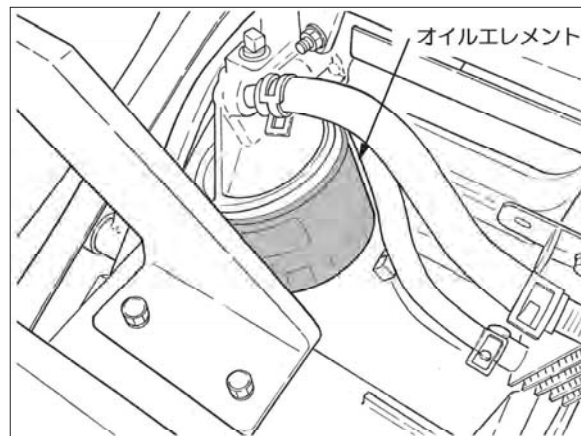
完全にオイルが排出されたらドレンプラグを締め、新しいオイルを給油口から入れてください。



6. 各部フィルタの交換のしかた

①エンジンオイルエレメント

エレメントはカートリッジタイプになっています。最初は50時間、2回目以降は100時間毎に交換してください。

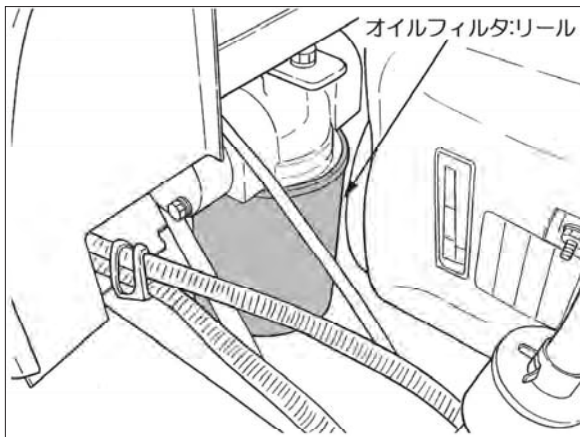
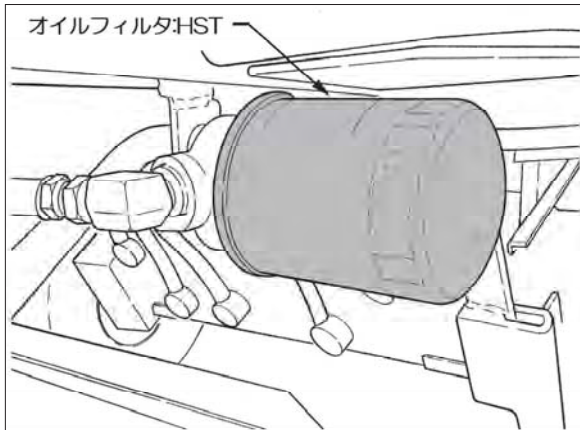


交換

- (1) エンジンオイルを抜き取ったあと、カートリッジをフィルタレンチで左側に回して外します。
- (2) 新しいカートリッジの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、手で確実に取り付けてください。
- (3) エンジンオイルを交換後、エンジンを始動しアイドリングで運転させてオイルもれがないか調べます。
- (4) エンジンを止め、再びオイルレベルを点検し、必要に応じて注ぎ足してください。

② オイルフィルタ

オイルフィルタはカートリッジタイプになっています。最初は50時間、2回目以降は300時間毎に交換してください。

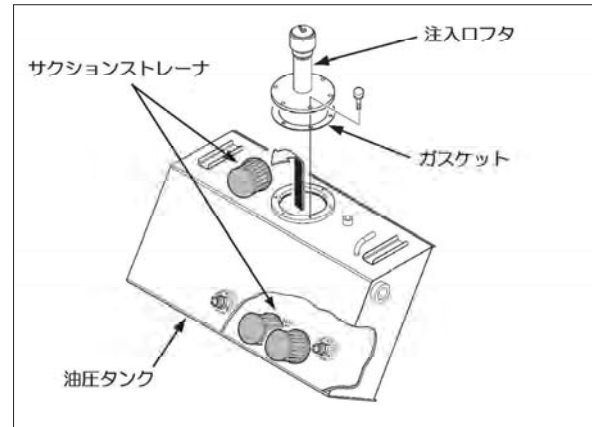


交換

- (1) フィルタのカートリッジを左側に回して外します
- (2) 新しいフィルタの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、手で確実に取り付けてください。
- (3) フィルタの交換後、エンジンをアイドルににしてレベルゲージの油面を点検し、不足してる場合は補給してください。

③サククションストレーナ

サククションストレーナの交換はHSTオイルと一緒に交換してください。



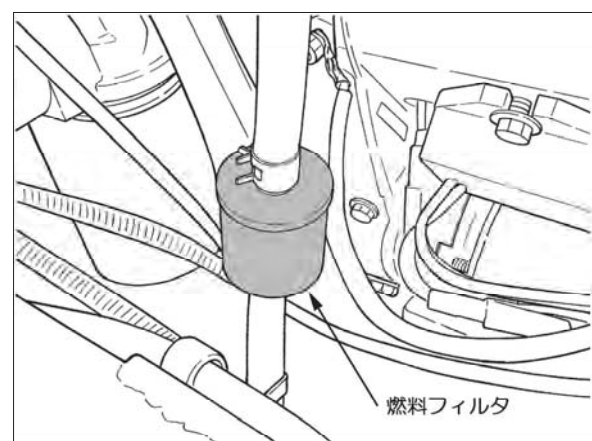
- (1) HSTオイルを排出したあと油圧オイルタンク内のストレーナを左に回して外します。
- (2) 新しいストレーナを確実に取り付けてください。

④燃料フィルタ

燃料フィルタは、100時間毎に洗浄、600時間毎に交換してください。

清掃・交換

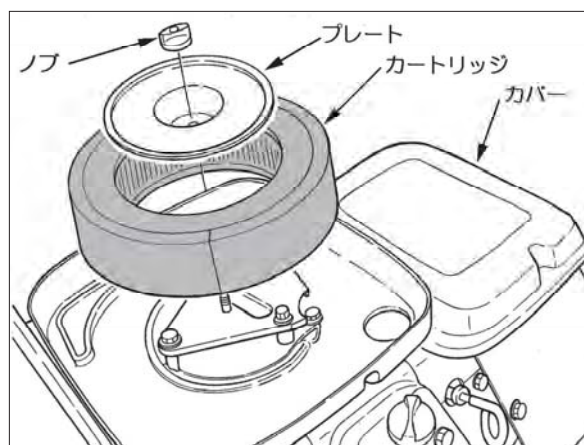
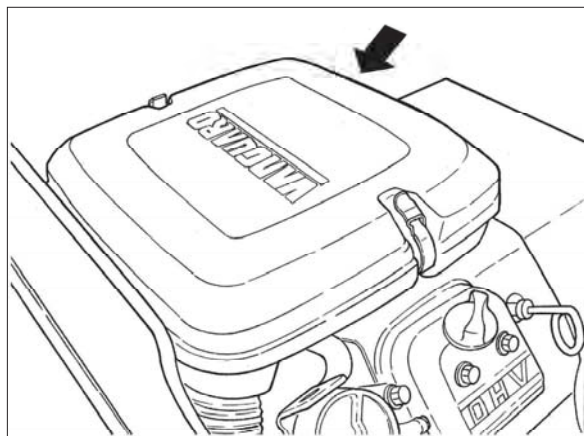
- (1) 燃料コックを「閉」の位置にします。
(P32参照)
- (2) フィルタを外し、フィルタカップ内の水、ゴミを取り除きます。
- (3) 洗浄が終わったら元通りに取り付け、燃料コックを「開」の位置にします。



9章 定期の点検・整備のしかた

7. エアークリーナエレメントの掃除・交換のしかた

エアークリーナは吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダライナ、ピストンリングの摩耗を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。



アウターエレメントは100時間毎に掃除、6回掃除の後には交換してください。ホコリの多い所で作業するときは、もう少し短い間隔で掃除してください。規定時間内になっていなくても1年間でエレメントを交換してください。

〈エアークリーナエレメントの掃除のしかた〉

- (1) ボンネットを開けてください。
- (2) クリップを外し、カバーを取り外します。中のカートリッジを抜き取り、内側から空気を吹き付けるか、軽く振動を与えて塵を落とします。フィンに傷を付けないよう気をつけてください。

- (3) カートリッジを外すとき、塵がキャブレター内に入らないように注意してください。

8. バッテリーの点検のしかた

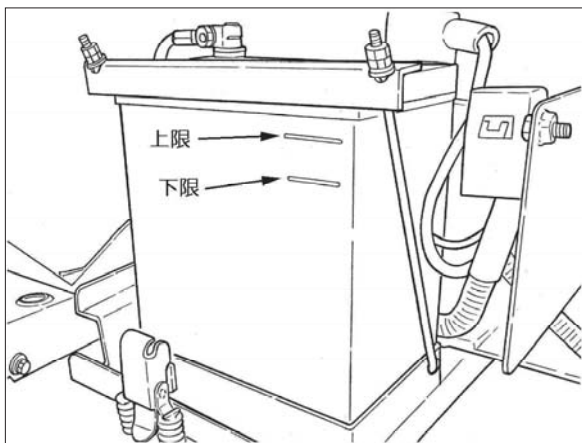
⚠ 危険

- バッテリーの点検時、充電時は火気厳禁です。守らないと、引火し爆発してヤケドを負うおそれがあります。
- バッテリー液を身体や服につけないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。守らないと、服が破れたり、ヤケドを負うおそれがあります。

⚠ 注意

- バッテリーの取り付けは、+側を先に取り付けてください。取り外すときは、-側から取り外してください。守らないとショートしてヤケドを負うおそれがあります。

バッテリーの点検口から、バッテリーの上限と下限のラインの間に液があるか調べます。不足している槽があれば蒸留水を上限のラインまで補給してください。



〔取扱いの注意〕

- バッテリー各槽に液を入れすぎると、充電時にバッテリー液が吹き出し、金属部を腐食させます。
- 急速充電は避けてください。
- バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した容量のバッテリーを使用してください。

- 環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリーは放置したり捨てないでください。必ずバッテリーを購入した店に渡してください。資源としてリサイクルされます。

⚠ 警告

- バッテリー液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。守らないと、容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て容器内のガスに引火し、破裂するおそれがあります。

9. パイプ類の点検について

⚠ 危険

- 燃料パイプ、パワーステアリングホースなどが傷んで燃料漏れや油漏れ、水漏れがないか、また締付バンドがゆるんでいないか調べてください。傷んでいなくても2年毎に交換してください。

10. 電気配線の点検について

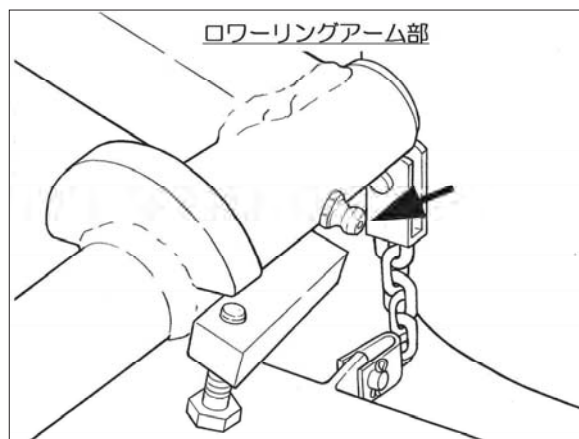
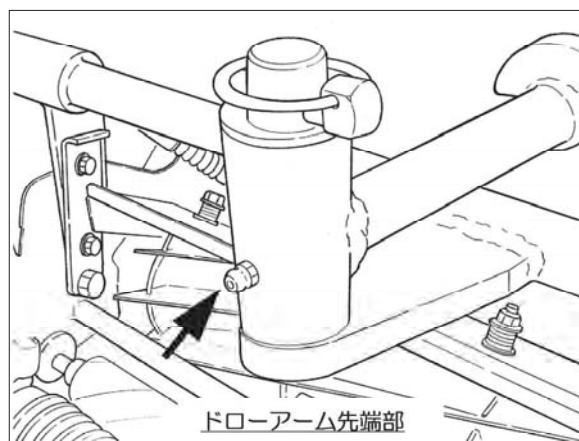
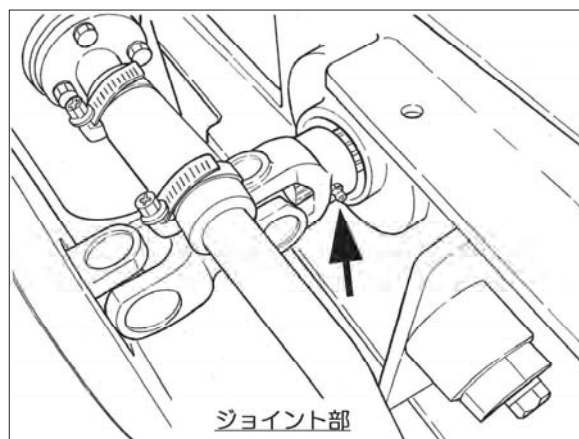
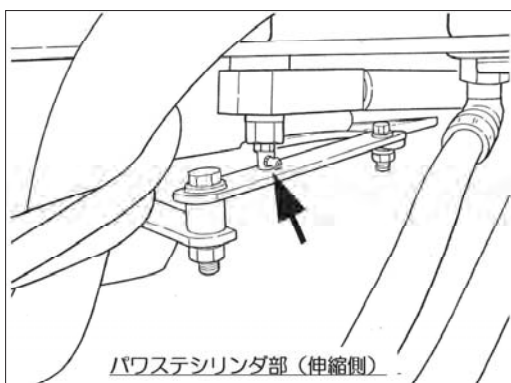
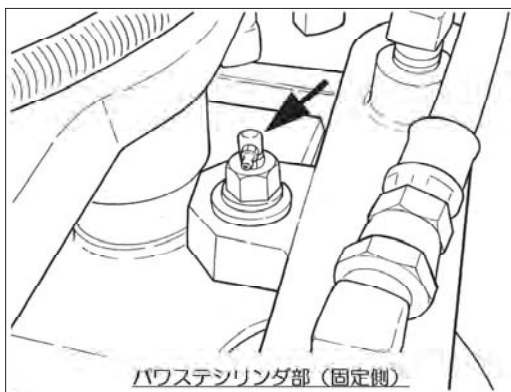
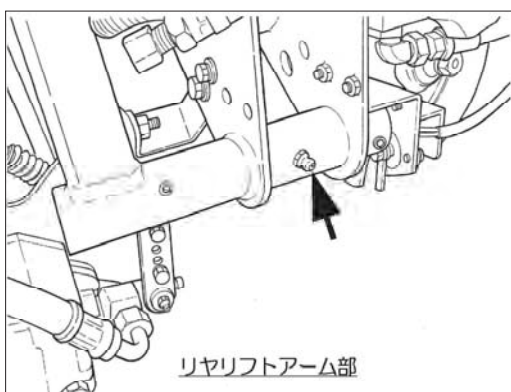
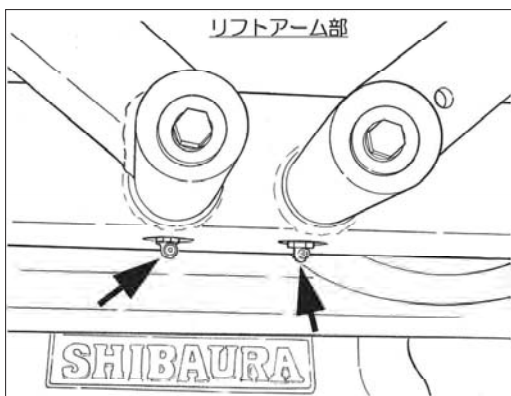
⚠ 警告

- 配線コードが他の部品に接触していないか、被覆はがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。
- バッテリーや配線に付着している草やゴミは、作業前、作業後にきれいに取り除いてください。守らないと、ショートして火災をおこすおそれがあります。

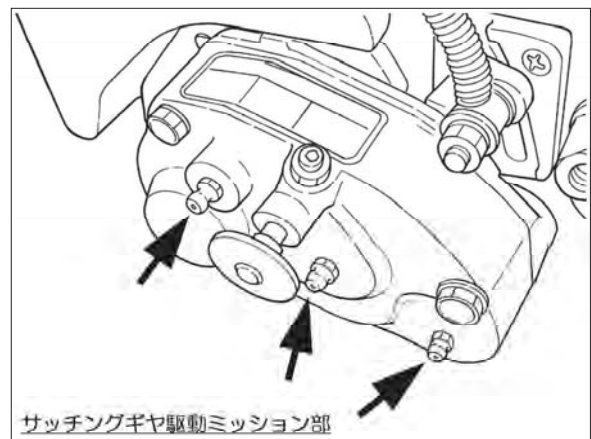
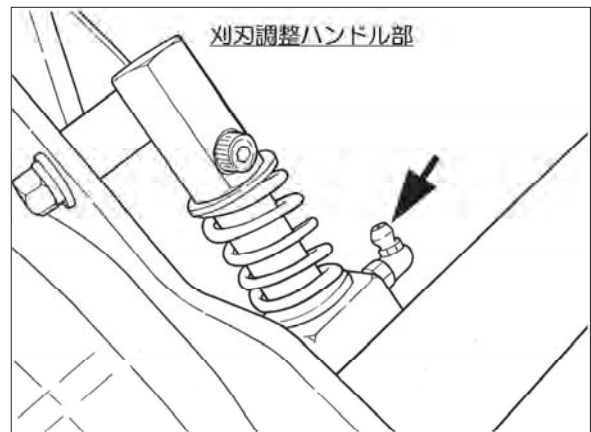
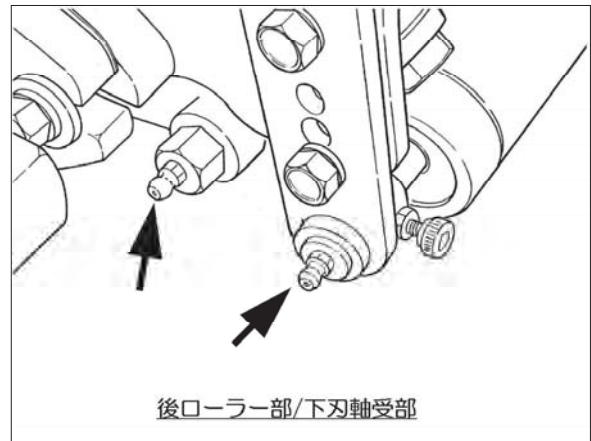
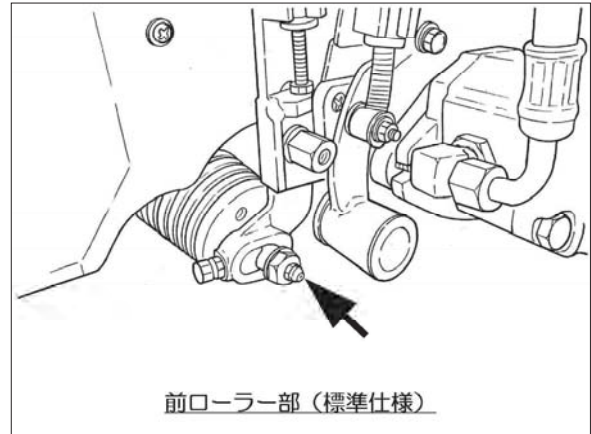
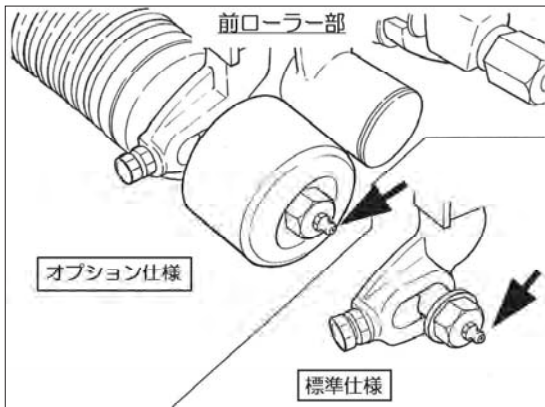
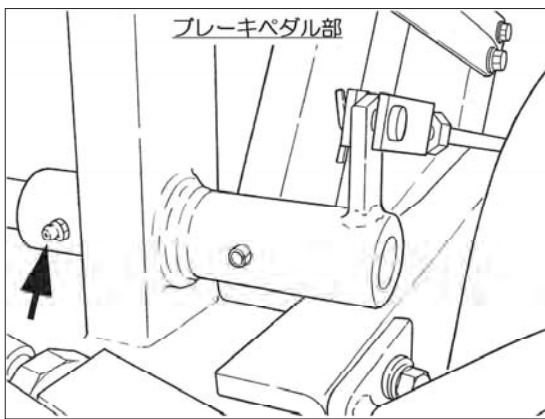
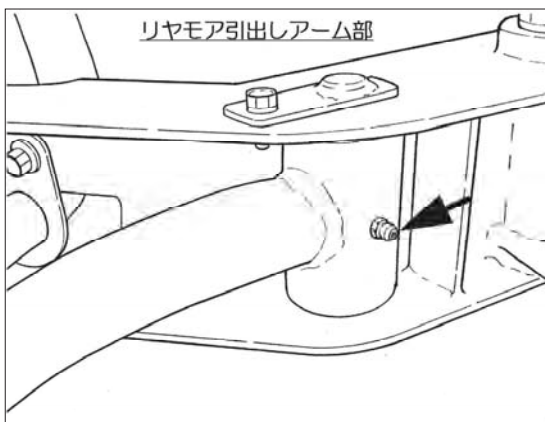
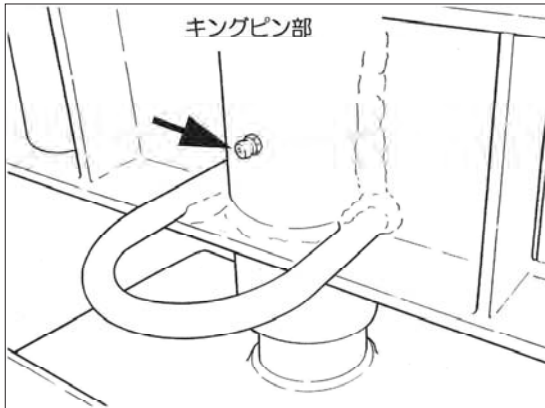
9章 定期の点検・整備のしかた

11. グリスアップ（注入）について

グリスアップは50時間毎に点検していただきますが、作業に入る前に各箇所のグリスの点検を行い、必要ならばグリスアップをしてください。



11. グリスアップ（注入）について
（続き）



12. リールクラッチベルトの点検・調整について

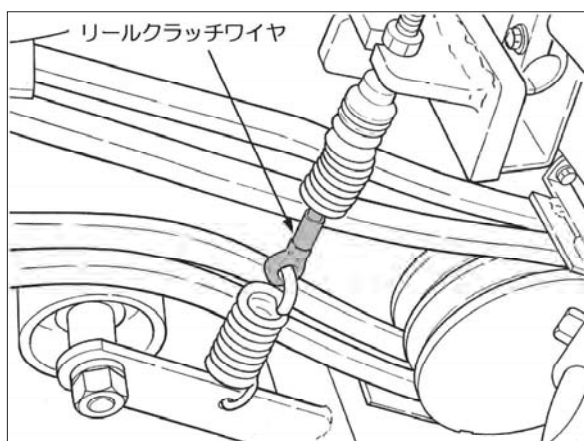
! 注意

- 必ずエンジンを停止してください。
- エンジンが十分に冷えた状態で行なってください。

守らないとヤケドを負うおそれがあります。

リールクラッチを入りにします。

ボンネットを開け、ベルトの中間部を約10N (1kgf) の力で押して、ベルトのたわみが4~5mm あるか、ベルトの破損損傷していないか調べてください。たわみが適正でないときはリールクラッチワイヤの張りを調節します。



13. エンジン回りの掃除について

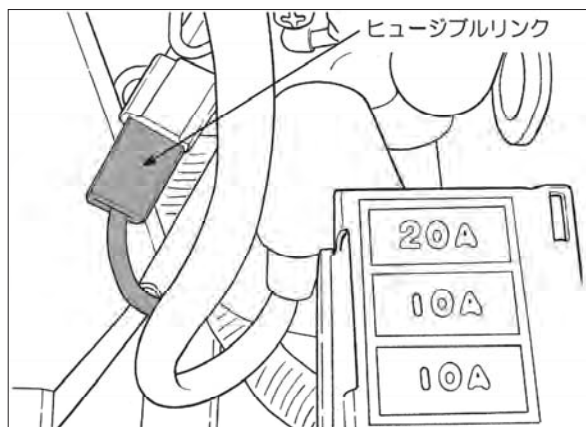
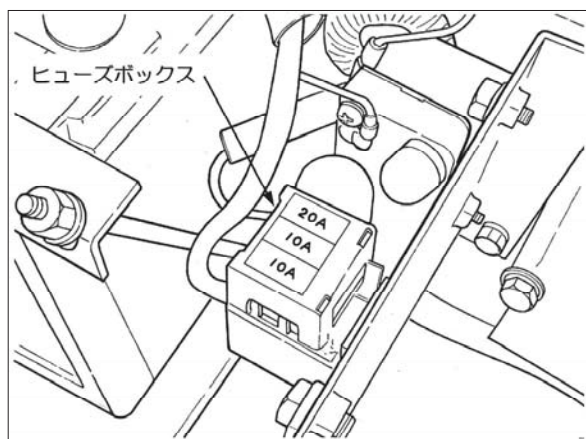
! 警告

- Vベルト回りやエンジン回りに推積した芝草などは、すみやかに取り除いてください。守らないと火災を起こすおそれがあります。

14. ヒューズ・ヒューズプルリンクの点検・交換について

ヒューズボックスのフタを外して、ヒューズを点検してください。

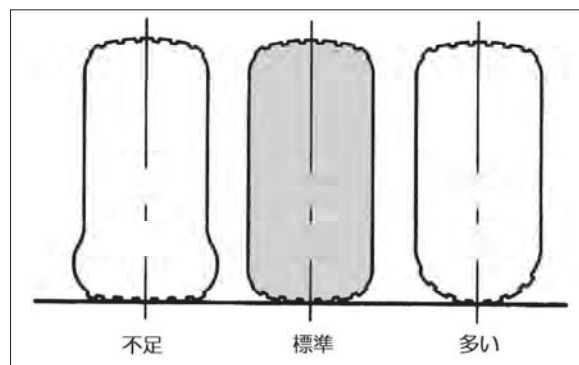
またエンジンを停止してヒューズプルリンクを点検してください。切れていれば規定容量のものと交換してください。



15. タイヤの点検について

①タイヤの点検

前後輪のタイヤの空気が適正であるか調べます。外観から判断する目安は次の通りです。



標準空気圧

	タイヤサイズ	空気圧kPa (kgf/cm ²)
前輪	19×10.5-8	78 (0.8)
後輪	18×9.5-8	78 (0.8)

またタイヤの損傷や亀裂がないか点検してください。

②車輪の取付ボルトの点検

各車輪の取付ボルトのゆるみを確認してください。ゆるみがあるときは下表に従い、増締めしてください。

車輪	締付トルク Nm (kgf・cm)
前車輪	50±5.9N・m (510±60kgf・cm)
後車輪	50±5.9N・m (510±60kgf・cm)

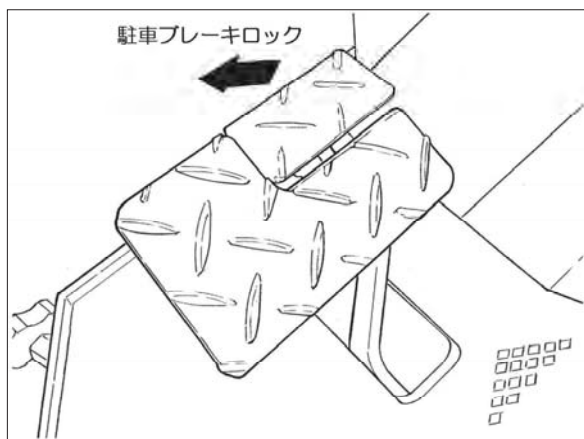
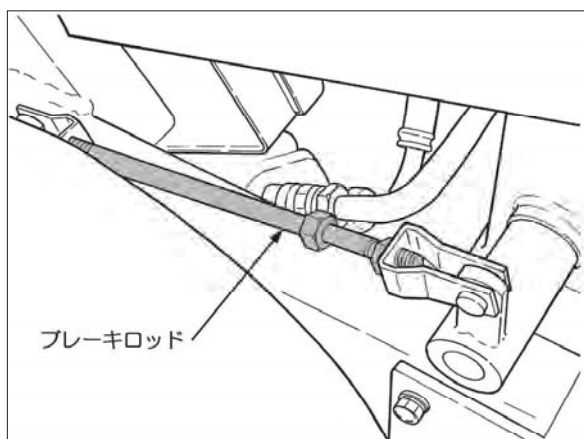
16. ブレーキの点検・調整について

! 警告

- ブレーキの効きが悪かったり、片ききがないように点検してください。守らないと事故を起こすおそれがあります。

ブレーキペダルを踏み込んで、規定の遊び量（10～20mm）と左右が同時に効くかを調べてください。規定の遊び量でない場合は、ブレーキペダルの遊び量が10～20mmになるようにステブレーキロッドで調節して下さい。

また、ブレーキペダルをいっばいに踏み込んだとき、駐車ブレーキが確実にかかることを確認してください。



10章 不調診断のしかた

警告

●もし機械の調子が悪いときは、表を参考にし、必ずエンジンを止めてから診断してください。

1. エンジン関係

状 況	点 検 箇 所	処 置
キースイッチを回してもスタータが回らない	セーフティスイッチがきいていませんか。	ブレーキペダルを踏んだ状態で、キースイッチを「始動」に回してください。
	バッテリー液は規定量入っていますか。または、放電してはいませんか。	バッテリー液を規定量補給し、満充電してください。
	バッテリー端子部がゆるんでいたり、腐食していませんか。	端子部を清掃し確実に締め付けて、グリスを塗布して防錆してください。
	ヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください
	スイッチが故障していませんか。	サービス工場で修理または交換をしてください。
スタータは回るがエンジンが始動しない。	セルモータが故障していませんか。	サービス工場で修理または交換をしてください。
	燃料タンクに燃料が入っていますか	ガソリンを給油してください。
	燃料フィルター目詰まりしていませんか。	洗浄、または交換してください。
	燃料コックが「C」位置になっていませんか。	燃料コックを「O」位置にしてください。
エンジンが不規則に回転する	点火プラグから強い火花が出ていますか。	点火プラグを清掃、または交換し、電極間隔を0.76mmに調整します。
	燃料フィルター目詰まりしていませんか。	洗浄、または交換してください。
	エアークリーナーが目詰まりしていませんか。	エアークリーナーを点検してください。
	キャブレターの調整は適切ですか。	サービス工場での調整をお願いします。
エンジンの回転が上がらない	吸入管系統からの空気の吸い込みはありませんか。	
	エアークリーナーが目詰まりしていませんか。	エアークリーナーを点検してください。
	排気に圧力がかかっていませんか	排気口、マフラーを清掃してください
	燃料の流れは少なくありませんか。	燃料フィルターを洗浄、または交換してください。
	点火プラグから強い火花が出ていますか。	点火プラグを清掃、または交換し、電極間隔を0.76mmに調整します。
エンジンが加熱していませんか。性能を超えた作業をしていませんか。	適切な作業量に減らしてください。	

10章 不調診断のしかた

状 況	点 検 箇 所	処 置
燃料消費が多い (黒煙がでる)	エアークリーナーが目詰まりしていませんか。	エアクリーナーを点検してください。
	不純物の混入や燃料の劣化はありませんか。	新しいきれいな燃料に交換してください。
燃料消費が多い (白煙がでる)	エンジンオイルが多すぎませんか。	オイルを規定量にしてください。

2. ブレーキ関係

状 況	点 検 箇 所	処 置
ブレーキのききが悪い、 または片効きする。	ブレーキの遊び量は適正ですか。	ペダルの遊び量を調整してください。
ブレーキペダルの戻りが 悪い、またはブレーキが 鳴く。	ブレーキ戻しスプリングが破損していませんか。	スプリングを交換してください。
	各摺動部のグリスが切れていませんか。	鈴びを落としてグリスアップをしてください。

3. 油圧関係

状 況	点 検 箇 所	処 置
作業機が上がらない。	HSTオイルが不足していませんか。	規定量まで補給してください。
	吸入パイプ系統からエアーの吸い込みがありませんか。	オイルフィルタや取付部などを増し締めし、パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損していれば、交換してください。
	オイルフィルタが目詰まりしていませんか。	オイルフィルタを交換してください。
	ポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理してください。
	コントロールバルブがゴミをかんでいませんが またはOリングは被損していませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか	サービス工場で修理してください。
作業機が下がらない。	コントロールバルブがゴミをかんでいませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。

4. 電装関係

状 況	点 枝 箇 所	処 置
ランプが点灯しない	電球が切れていませんか	電球を交換してください
	ヒューズが切れていませんか	ヒューズを交換してください
	ソケットから配線が外れていませんか	点検セットしてください
	接触が悪くありませんか	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください
ランプ類が点灯しない	電球が切れていませんか	電球を交換してください
	ヒューズが切れていませんか	ヒューズを交換してください
	配線の接続が悪くありませんか	点検し確実に接続してください
	スイッチが故障していませんか	スイッチを交換してください
	アースの状態が悪くありませんか	アース線を確実に車体に締め付けてください
	バッテリーが放電していませんか	充電してください

11章 その他

1. 主な消耗部品

エンジン関係

部品コード	名称	個数/台	備考
T07200530	カートリッジ	1	エアクリーナ
T07200531	プレクリーナ	1	エアクリーナ
A10920628	オイルフィルタ	1	エンジンオイル
T07200218	燃料フィルタ	1	燃料

油圧関係

部品コード	名称	個数/台	備考
A52360020	サククションストレナー	3	オイルタンク
A40620020	オイルフィルタ：HST	1	
340500780	オイルフィルタ：リール	1	
A98660250	Vベルト	2	W800 SB39

電装品関係

部品コード	名称	個数/台	備考
385120730	バルブ (1.4W)	2	刈取り、ラッピングSW
385620220	コネクタ：ダイオード	1	1A (青) 10013号機まで
385620310	コネクタ：ダイオード	1	3A (黄) 10014号機まで
485230220	ヒューズプルリンク	1	16A (緑) 10013号機まで
385410360	スローブローヒューズ	1	30A 10014号機より
385410130	ヒューズ	1	20A
385410080	ヒューズ	2	10A

モア関係

部品コード	名称	個数/台	備考
A70151400	カイテンバ (11)	3	11枚刃
A70430060	シタバ	3	3. 5/ハイス

2. 標準付属品

品名	個数/台	備考
工具袋	1	
刃合わせ工具	1	
刈高調整ケーシ	1	
取扱説明書	1	

3. 仕様

本機

モデル		MG-70		
機体寸法	全長 (mm)		2120	
	全幅 (mm)		1840	
	全高 (mm)		1370	
	軸距 (mm)		1285	
	輪距	前輪 (mm)	1050	
	量低地上高 (mm)		120	
車輪	前輪サイズ		19×10.5-8 4PR	
	後輪サイズ		18×9.5-8 4PR	
エンジン	型式名		バンガード	
	種類		V型2気筒空冷4サイクルガソリンエンジン	
	気筒数		2気筒	
	総排気量 (cc)		627	
	出力 [kW (PS) /rpm]		14.9(20)/3600	
車体	走行駆動方式		HST無段変速	
	制動装置		内部拡張式	
	かじ取り装置		全油圧パワーステアリング	
	速度	前進	(Km/h)	0~14.0
		後進	(Km/h)	0~6.8
本体質量 (kg) (乾燥重量)		392		
容量	燃料タンク (L)		20	
	オイルタンク (L)		23	
	バッテリー		38B20R	
リールモア	全刃幅 (mm)		1525	
	回転刃 (mm)		φ123	
	刃数 (mm)		11枚	
	刈高範囲 (mm)		~30	
作業能力 (a/h)		(作業速度6km/h、効率0.8のとき) 73		

